

**第 2 次松戸市地域福祉計画に関連する
地域団体の取り組みの把握結果**

平成 27 年 7 月
松 戸 市

第2次松戸市地域福祉計画に関連する地域団体の取り組みの把握結果

— 目 次 —

1. 目 的	1
2. 方 法	1
3. 回収結果	1
4. 結 果	2
(1) ボランティア活動の有無	2
(2) 分野	3
(3) 対象者	16
(4) 開催数	17
(5) 利用者(会員)数	18
(6) 従事者数	19
(7) 活動開始時期	20
(8) 活動経費(町会・自治会のみ)	21
(9) 財源(収入源)(町会・自治会のみ)	22
(10) 活動メリット	23
(11) 活動当初と比較して変化したこと	33
(12) 周知方法	42
(13) 問題点	43
(14) 取り組む上で必要と感ずること	44
(15) 今後の方向性	45
(16) 地域福祉についての意見	46
5. 把握表	54

1 目 的

地域福祉を進めるには市民や町会・自治会、ボランティア、NPO、各種の団体の支えが重要であるため、今後、重点項目の「地域での支え合い活動の推進～孤立させない地域づくり～《声かけ・見守りの推進》」、また 4 つの推進項目「地域での防災・災害時要援護者」、「地域福祉推進のための担い手の育成」、「地域での交流・ふれあいの場づくり」、「ふるさとづくりの推進」に重点をおいて地域でどのような活動が行われ、問題が生じているのか等を把握し、次期計画策定の参考資料とすることを目的とする。

2 方 法

- (1) 対 象：松戸市で活動する民間企業、複合サービス、福祉関係機関、市民活動登録団体、地域団体、町会・自治会
- (2) 期 間：平成 27 年 3 月～5 月
- (3) 方 法：郵送・FAX・メールによる配布・回収

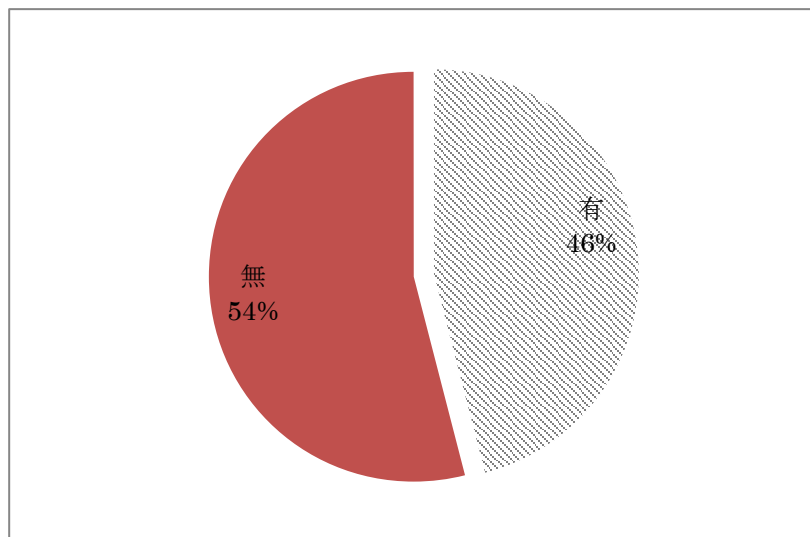
3 回収結果

No.	種 別	配布数	回収数	回収率(%)
1	民間企業	7	4	57.1
2	複合サービス	49	4	8.2
3	福祉関係機関	81	36	44.4
4	市民活動登録団体	113	56	49.6
5	地域団体	63	52	82.5
6	町会・自治会	364	198	54.4
	計	677	350	51.7

4 結 果

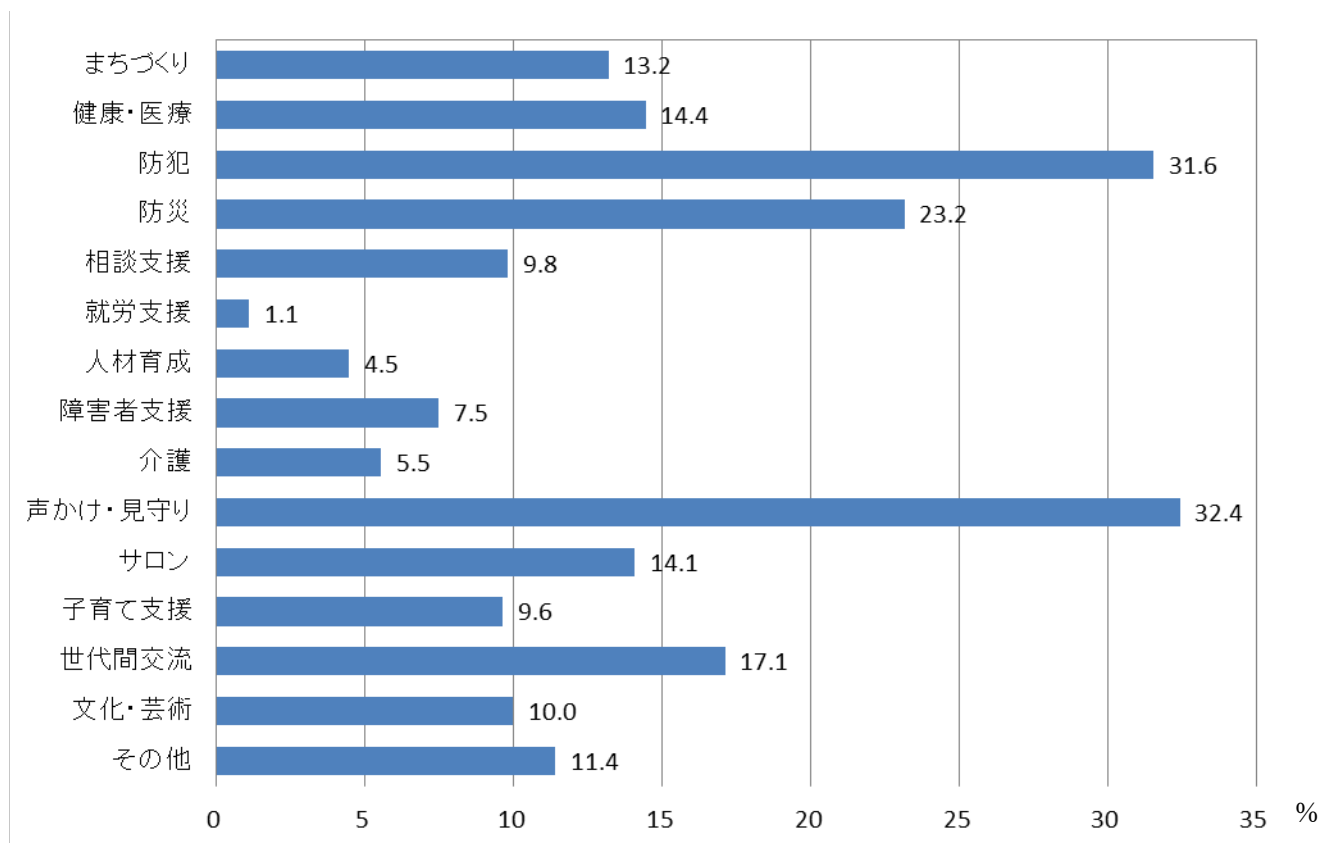
(1) ボランティア活動の有無・・・ボランティア活動の一環で取り組んでいるのは、全体で46%となっている。

回答数：561



(2)分野(複数回答)・・・地域の中で、「声かけ・見守り」、「防犯」、「防災」に関連した取り組みを行っている団体が多い。

回答数：561



◆団体種別 (取り組み数)

	民間企業	複合サー ビス	福祉関係機 関	市民活動登 録団体	地域団体	町会・ 自治会	計
計	8	18	70	133	185	738	1152
1 まちづくり	1	0	3	15	15	40	74
2 健康・医療	0	0	11	8	19	43	81
3 防犯	2	3	0	1	5	166	177
4 防災	0	2	2	3	5	118	130
5 相談支援	1	0	8	9	14	23	55
6 就労支援	0	0	1	4	1	0	6
7 人材育成	0	0	2	5	11	7	25
8 障害者支援	0	0	1	8	21	12	42
9 介護	0	0	5	5	10	11	31
10 声かけ・見守り	2	4	4	10	24	138	182
11 サロン	0	1	5	4	23	46	79
12 子育て支援	0	2	14	12	9	17	54
13 世代間交流	1	3	8	15	8	61	96
14 文化・芸術	1	1	2	16	6	30	56
15 その他	0	2	4	18	14	26	64

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

◆取り組みの内容(抜粋)・・・以下、原文のままの掲載となります。

《まちづくり》

1	独自活動のほか、UR、行政との協働を重視。
2	町内運動会、お祭り、カラオケ大会等の集まりを利用して色々とはかっています。
3	地域の各町会と連携して桜まつり、盆踊り、敬老会、運動会を行い、ふるさとづくりに役立っている。
4	公園清掃・敬老入学祝・花見茶話会・避難訓練・軒下回収・防犯灯整備・記念館等見学会
5	坂川、河川敷を利用し、春の花壇づくり、固定植木類の手入、観賞して楽しむ。
6	小金原に育つ子ども達が住み続けたくなる様な町、又地元へ戻って着たくなる様な町になるきっかけとなる様に思いを求めていくもので、地元出身のミュージシャンやライブや地元中学生の吹奏楽の演奏、もちつき大会、書道、吟等を行う。
7	千駄堀湧水広場花壇の手入れ(花苗の植付、除草)を会員と町会員が共同して行い、また広場全体の環境保全(市と町会で管理契約有)に努め、コミュニケーションの推進、自然の保護を行っている。
8	花植え、せん定等の活動、特に毎住宅フェンスにアサガオ植えを、又、阪神淡路大震災に関連したヒマワリの花も植えている。
9	町内のかぶと公園にて8月下旬開催。運営、模擬店運営等全て町会員手づくりで実施。
10	・河川に対して児童への学び、河川周辺の清掃。・先進地(河川)へ視察研修 ・水質検査、市イベント等の鯉のぼりを川面に泳がせる。(最大の事業)
11	・五香公園の清掃、草むしり　・学童の交通誘導への参加
12	金ヶ作育苗園において花種を蒔き苗に育てて協力団体に配布する。松戸市役所前花壇などデザイン花壇の作成実施作業等。
13	1. 南公園を年間通して草取りと花壇内の花苗交換管理　2. 中学校内の花壇5箇所の草取り、花苗交換管理　3. 河原塚古墳の森、古木の伐採や下草及び篠刈等　4. 市役所前花壇や地域の緑化推進
14	・花桃の見守りと、枯れた樹の植え替え。　・坂川河畔の清掃。
15	地域と密接に関係するテーマで開催している ・江戸川、坂川水源について　・放射能について　・新松戸で観れる秋の星座
16	年2回坂川で実施される献灯まつり、桜まつりの開催及び坂川の美化活動。

《健康・医療》

1	一昨の秋に小金原地区に発足した地域包括支援センターへの協力要請を行ったところ、地区のモデル的対応として共催という形式で毎回取り組みのメニューを換え、スタートしました。
2	1. 老人対象（原則 65 才以上であるが、特には問わない）に健康・社会の事象について 2 回 / 以上出まえ講座の開催 2. 朝のラジオ体操会（月・水・金）の実施
3	・夏休みに大人・子どもを対象に早起きラジオ体操実施（5 日間）
4	各町会の 70 才以上のひとり暮らしの方を訪問し、安否確認と心配事など聞き行政に。65 才以上の方を対象にストレッチ、頭の体操を行い認知予防と寝たきり、転倒防止。
5	町内高齢者を対象に定期的にグランドゴルフを実施
6	高齢者集まりで体操をしたり、色々な講師の話聞き食事をする。
7	毎週 2 回（木、土曜日）町会会館で卓球を行っている。
8	民生委員の高齢者見守りに医療専門職者（知識者）が同伴し、認知症の早期発見、他困り事、病気等への支援。アドバイスを。
9	・高齢による、毎週希望日の電話による安否確認電話。不通の人は直接安否確認をするもの。 ・料金無料
10	60 歳台～を対象に「生活習慣病、ロコモ予防」を目的とした運動（体操）教室開催（2008 スタート）
11	70 歳台～を対象に「介護予防」を目的とした運動（体操）教室を開催（2011 スタート）
12	週に 1 回提携している医療機関を通じ、電話で体調を確認している。
13	毎月 2 回団地集会所にてお茶会を通じて見守り、声かけ、健康体操を行いコミュニケーションを図る。
14	・週 1 回地域の高齢者に集まっていただき、心身機能低下予防のためのプログラムを実施（予定、未定） ・週 1 回地域の学童に集ってもらい、学習指導を実施（予定、未定）
15	毎月 2 回の地域のボランティアの皆様と地域の皆様と六実中央光公園にあるうんどう遊園を使用して介護予防運動をしています。
16	突然の心肺機能停止に対する AED を使用した救命処置の普及。
17	松戸市内 16 ヶ所で「わくわくストレッチクラブ」を運営。280 名の高齢者が毎週健康維持のために通っています。また、この教室、インストラクターマネージャーの要請講座を実施。
18	・保健師による体操やワーク・認知症に関する正しい知識と理解を身に付ける方の養成講座 ・日頃の在宅介護についての悩みや介護方法等について話し合う場

《防犯》

1	毎月1回 町会区域内を巡回している 通学路に毎日立ち 声かけ 見守りをしている
2	歳末防犯パトロールは12月25日～31日まで。 自主防災訓練6月20日実施します。
3	矢切小学校と連携し下校時間に合わせてスクールガードメンバーがローテーションを組み毎日行っている。
4	毎月2回町会地域内を巡回パトロール。 また、ボランティア様による高齢者に声かけ見守り活動を行っている。
5	防犯指導員、防災リーダー、三役が毎月2回（朝）町内を巡回している。同時に小学生登校をも守り、声かけを実施している。歳末夜警。
6	①毎月第二日曜、町会例会の際、執行部、班長一同行き帰りに防犯 ②連合町会約2ヶ月/1回合同パトロール（移動交番とともに） ③末12/25～29 各町会で火災予防兼ね夜警 ④2回/ 連合町会合同夜警・青パト
7	・防犯灯（34灯）の維持管理、予防幟旗の設置、屋外に消火器の設置（区ごと）
8	毎月2回区域内を巡回して防犯パトロールを実施している。
9	通主に夜間帯に防犯指導員、地域防災リーダー、場合により町会防災部担当者を加え、町会全域をパトロール。無灯走行自転車への注意なども行っている。
10	毎月4回（土曜日）地区内を巡回している。その都度地域の方へのあいさつを行っている。
11	毎月1回（第二土曜日）自治会区域内巡回。夏は巡回回数を増やし、12月は3夜連続で歳末特別パトロール。
12	中部小の登下校時スクールガード（基本は毎日6名位）暮の夜回りで防犯、防災、松戸花火での見回り、民生児童委員と老人世帯の声かけ見守り。
13	防犯パトロールは（朝登校時の児童見守りを中心に）毎朝交替で！ 防災は2～3回町会ぐるみで。末に火の用心（4～5日）⇒夜警、防災訓練、防災講座等
14	悪天候を除く毎日、町会単位の交替制で地区全域を4分割範囲を60分～90分「青パト」パトロール
15	① 空巣進入盗不審者などに対する抑止力に役立っている。 ② 児童の下校時間に合わせPM3：00～4：00 走行しております。

《防災》

1	3.11 後緊急の対策のため要援護者の名簿を調査し同時に家族構成も把握してペンギン公園内に防災倉庫を設置。水・食料・ミルク等を備蓄中又防災訓練計画中です。
2	・防災センター見学及び体験、二十世紀ヶ丘消防署と連携し防災訓練実施（1回）

3	幸谷小学校をお借りし、出火初期消火、応急処置、AED 訓練。超震車体験、町会手持の防災具展示披露、炊き出し訓練
4	災害発生後における避難所の開設準備、運営から撤収までの流れを確認する。各町会、自治会の参加型で構成し、学校の状況も含め検討していく。
5	町会、自治会の枠組を超える「ボーダーレス」をテーマに、意見交換会やこれからの地域での防災について検討をしていく。
6	自主防災組織体の編成と活動（管理組合/防災リーダー主導）。防災情報ライブラリー設置。各種啓発活動。防災倉庫増設。防災訓練の企画運営/実施。緊急時対応（大雪）
7	県立松戸高校校庭、煙道避難、バケツリレートレーナー、消火器、止血方法、搬送法、心肺蘇生、起震車の実施、アルファ米炊き出し
8	・防火、防災訓練＝通報、消化　　・防犯カメラ設置＝6ヶ所　　・巡回、挨拶、声かけ＝高齢者支援連絡委員
9	・避難場所への誘導　・AED の使用方法　・炊き出しの実施　・消火器、バケツリレーによる消化活動　・チェーンソーの操作等
10	・西部防災センターで体験学習、避難場所までの誘導、保存食の炊き出し訓練、消防署員による講話、目印用の手ぬぐい配布、町会人員を把握し、要支援者の特定。
11	毎週火曜日午後 8 時から町内を巡回している。一義的には犯罪を防ぐ効果、二義的には町内会会員相互の絆を深める事を目的としている。今で 8 目、構成は 4 人 1 組で 5 組の輪番制を採用している。
12	・緊急時に支援要護者の把握と住民の状況把握のための訓練。 ・発電機、消化設備の設置と飲料水、食料、医薬品の備蓄。
13	毎 9 月に防災訓練実施（前度は千葉県西部防災センターで体験学習ツアーで参加）、要支援者確認
14	おにぎり、豚汁、やきとりを調理し飲食しながら各種ゲーム（ビンゴ、輪投げ、バルーンアート、ミニグランドゴルフ等）を楽しみ、世代間の親睦、交流を図る。防災の炊き出し訓練も兼ねる。
15	住民届（1 回提出）をもとに、マンション居住の要支援者が一目できるマップを作成。主目的に災害時の共助であるが、高齢者支援の参考資料として活用している。

《相談支援》

1	独自活動のほか、UR、行政との協働を重視。
2	民生委員等の定期巡回による状況の把握と一回の高齢者調査実施（但し、個人情報問題もあり、100%の把握困難）。
3	平成 24 年 11 月に「生活困窮者対応に関する覚書」を締結しております。 1. お客さまから生活困窮のお申し出があった場合には、福祉部局等へ相談するようにお勧めするとともに、必要に応じて窓口案内チラシを配布し福祉部局等の連絡先をお知らせする。 2. 福祉部局等を紹介したがお客さまが出向くことが困難な場合には、お客さまに承諾をい

	<p>ただき弊社から連絡を行う。</p> <p>3. お客さまが生活困窮申請予定あるいは申請中であることが確認できた場合には、「支払確約書」の作成を条件に、生活保護費受給開始までの間、ガス料金の支払期限を延長する個別対応を行う。</p>
4	1. たすけあい活動（有償ボランティアサービス） 2. 居場所（サロン） 3. 相談支援活動 4. 介護保険 5. 障害者総合支援
5	不定期で事務所にて後見人、老人福祉問題の相談
6	年金、介護、成年後見等に関してセミナー、相談会を開催する。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談内容や対象者を問わない福祉の総合相談窓口としての機能を持つ。 ・ 相談内容に応じて様々な支援（社会資源の情報提供、コーディネート、直接的な生活支援などを行う）
8	障害を持つ本人又はご家族からの相談
9	担当地区内の在宅生活者（概ね 65 歳以上）への相談窓口業務を行っている。
10	<p>①毎月 2 回 ふれあい 22 で面談や電話による相談を受けている</p> <p>②週 4 日 土曜会事務局での面談・電話相談</p> <p>③ 訪問もする</p>
11	<p>1. 不登校の子どもたちがきて、大学生ボランティアと交流しながら元気を回復することをめざす</p> <p>2. 親たちの話を聞き、相談にのる、必要な情報を提供する</p>
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健師による体操やワーク ・ 認知症に関する正しい知識と理解を身に付ける方の養成講座 ・ 日頃の在宅介護についての悩みや介護方法等について話し合う場

《就労支援》

1	1. たすけあい活動（有償ボランティアサービス） 2. 居場所（サロン） 3. 相談支援活動 4. 介護保険 5. 障害者総合支援
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談内容や対象者を問わない福祉の総合相談窓口としての機能を持つ。 ・ 相談内容に応じて様々な支援（社会資源の情報提供、コーディネート、直接的な生活支援などを行う）
3	地域活動支援センター福祉作業所バクの家の運営及び支援
4	年中無休、ほぼマンツーマンでパソコン講習を行っています。必要に応じて出張も行います。
5	若年者、中高年、ひとり親の方々に対し、職業訓練（パソコンスキル向上、ビジネスマナー等）やキャリアコンサルティングの実施（就労相談）、履歴書の書き方、インターシップ等

	の就労支援を実施しております。
6	働くことに踏み出せずにいる中学校を卒業した15歳から39歳までの若年無業者のための就労機関です。「空白があって次の一步が踏み出せない…」「人間関係でつまづいて働くことが不安…」「働くために何から始めたらいいかわからない」等就労に関する悩みのある方をサポートし、社会に踏み出すための第一歩を後押ししています。就職後の相談もお受けしています（職業の斡旋、紹介は行っていません）

《人材育成》

1	毎月2回、地域で小学生ができる様々なボランティアを行っている。 (ゴミ拾い、グループホーム訪問、敬老会参加、防災マップ作成など)
2	①普及・啓発のための講演会・講習会の開催 ②市民後見人の養成講座の開催 ④ 談会(成年後見制度に関する)の開催 ④見受任活動
3	買い物をして作って、食べて、片付けをする。仲間作り、居場所づくり、生きがいづくり、引きこもっている男性を引っ張り出す。
4	子どもが宿題寺子屋に来ておじいさん、おばあさんとふれあい遊び、宿題して世代交流、子育て支援
5	松戸市内16ヶ所で「わくわくストレッチクラブ」を運営。280名の高齢者が毎週健康維持のために通っています。また、この教室、インストラクターマネージャーの要請講座を実施。
6	電球の取替えから、草抜き、植木の剪定、階段や手摺の取り付け、障子、ふすまの張替え、パッキンの不良等水漏れ、電気のスウィッチの不良等、住まいに関する困り事に対応しています。お年寄り、障害者対応。
7	女性センターのフェスタの自主事業として実施
8	①平成25年より就学前の幼児を考える保護者相談を行っている。今年度から隔週で3ヶ月1クールとして計6回で親の育ち支援としてグループワークを行う予定 ②相談員等への研修は年に2回セミナー、年6回事例検討会を行っている。 ③依頼で派遣
9	60歳以上のろう高齢者が地域や家庭で孤立しないように、ヘルパーの方と一緒にバザー品作り、茶話会、バザー、社会見学などの企画を通して交流している。
10	独自活動のほか、UR、行政との協働を重視。

《障害者支援》

1	毎週ふれあい22のおもちゃ、又来館者持ち込みおもちゃの修理、及び老人ホームの車椅子のメンテナンス・話し相手及び、月1~2回定期的に14ヶ所・不定期イベント等で20ヶ所参加すると共に、退職者の老後の生き甲斐として活動を行っている。
2	・相談内容や対象者を問わない福祉の総合相談窓口としての機能を持つ。 ・相談内容に応じて様々な支援(社会資源の情報提供、コーディネート、直接的な生活支援

	などを行う)
3	身体に障害があっても高齢になっても健常者と同じ様に市民センターホール等でダンスを楽しむことができる社会環境の実現を目指して活動している。
4	年1回、視覚障害者、松戸点訳会、松戸朗読奉仕会の三者が協力して、落語、コンサート、ゲーム、それぞれの出し物、会費等で交流をはかる。
5	毎月1回、障害者福祉センターふれあい教室「朗読をきくかい」の講師として障害者対象に小説、エッセー等の短編を朗読して聞いていただく。
6	年1回、障害者週間記念イベントで朗読。司会。当会でブースを設け、来訪者による朗読会体験。会の活動内容の展示等。
7	千葉県視覚障害者福祉協会からの依頼により、市内保育所(園)、幼稚園、小中学校から準備された書き損じ葉書、切手などの回収作業を協力
8	発達障がいのある子ども達も参加できる体操教室、学校の体育の授業で行っている種目のサポートをしています。
9	・毎週木曜日、そのうち第2、第4を勉強会としている。 ・毎週第2水曜日を視覚障害者の点字講習会
10	毎週金曜日に開催、主に社会福祉協議会内で脳卒中で身体マヒや失語症などの後遺症を持つ方々の対象に書道、絵画の制作、言語訓練(歌・深呼吸・手指の運動・ニュース等)俳句等を通して個々の能力を育成し、生活の活性化や生きがいづくりの場となって、家族の相談・交流を深めております。
11	高齢者への娯楽場の提供、障害者の移送等
12	市内の放課後児童クラブ、保育所・おやこDE広場、施設作業所、小金分館(図書館)あじさいのへや、松戸伊勢丹内ジュンク堂書店での定例おはなし会。依頼おはなし会。月1回の定例研修会。講師を招き特別研修会。諸団体とのイベント参加。等

《介護》

1	高齢者ご夫婦及び独居の方の老人ホーム等への入所指導
2	災害時、要援護者の支援体制について
3	住民届(1回提出)をもとに、マンション居住の要支援者が一目できるマップを作成。主目的に災害時の共助であるが、高齢者支援の参考資料として活用している。
4	地域の方々の運動のあいさつ、声かけ活動、介護にも力を入れている。(介護ヘルパー)
5	毎月1回以上、市内・市外の介護・福祉施設で歌謡曲演奏を行っている。
6	年金、介護、成年後見等に関してセミナー、相談会を開催する。

7	市や地域包括支援センター、事務所等との連携の下、社会的生活を送る上で困難を抱えている方々の生活再建等に関する相談・支援を主に成年後見活動の観点から行う。
8	特別養護施設（2ヶ所）入浴後のヘアー乾かしドライヤーかけ、着替え。
9	医療、介護、福祉など正しい知識を身に付け、日常生活に取り入れていただく。
10	・保健師による体操やワーク ・認知症に関する正しい知識と理解を身に付ける方の養成講座 ・日頃の在宅介護についての悩みや介護方法等について話し合う場
11	(1) 要支援者・要介護者の自宅を訪問して家事援助、身体介護を行う (2) 要支援介護者の居宅サービス計画を作成する (3) 要介護者を施設に迎えて、機能の維持・向上や生活の活性化を図る

《声かけ・見守り》

1	平成13年10月に「松戸市一声運動におけるひとり暮らし高齢者の情報提供に関する覚書」を締結しております。 1. 松戸市一声運動に登録している概ね65歳以上のひとり暮らし高齢者（登録高齢者）に対して、検針業務中に声かけ（安否確認・孤独感の解消）等の支援活動を実施する。 2. 高齢者（登録高齢者）に緊急の事態が発生していることを発見した場合には、関係機関へ通報する。 3. 検針業務中に、家屋等の外観が不審な状況にあることを発見した場合には、声かけ等を行い状況を把握した上で連絡担当部局（福祉長寿部高齢者支援課）へ連絡する。
2	① 相談協力員が各町会の実状に応じ、声かけ・見守り並びに相談支援を行っている。② 相談協力員が地域での人と人とのつながりを深める交流（サロンを開催：二葉草、友遊会、オリブの会、たんぽぽの会、八景台等）を通し、ふれあいの場づくり、ふるさとづくりに役立っている。③ 地域個別ケア会議では高齢者への支援を中心として地域の課題を持ち寄り解決策を検討、検討結果は記録し、地域住民に伝達・地域福祉の向上に役立てている。
3	市内、従業員が、高齢者困っていると判断した時に市へ連絡する。
4	身近な地域で連れ合いのいない高齢者、また家族と同居でも日中一人きりの高齢者・認知症の方などに語りかけ良き話相手を務め、その輪を広める。
5	ひとり暮らしの人を対象に最低月1回、見守り、声かけを実施。交流、親睦を深めることを目的に茶話会を4回実施
6	ほぼ毎日、担当地域内のパトロールを行っている。地域の方々へのあいさつ等の声かけ活動を行っている。
7	声かけはマンション管理人さんにての声かけ、支援連絡員にての出会いの場での声かけし、スーパー、ごみ捨て、ディーの送迎時、見守りも同じ、管理人さんと共に高齢者の出入、ポスト、洗濯物、月1回民生委員との巡回。

8	75才以上の会員に案内状を送り、敬老の集いへの参加を呼びかける。高齢者には紅白饅頭をお届けする。(除辞退者)(平成25年度までは70才以上を対象としていたが、対象者が増え、会場に入りきれなくなり、現在は75才以上が対象)
9	民生委員の高齢者見守りに医療専門職者(知識者)が同伴し、認知症の早期発見、他困り事、病気等への支援。アドバイスを。
10	・ポストの新聞や郵便物等の溜り具合等の確認。 ・通学路の安全確認、街路灯等の点検、交換依頼。
11	毎月2回、町会内区域を巡回して、主として避難行動要支援者(登録者)、一人暮らし高齢者を中心に声かけ見守りを行う。
12	①本人に代わりゴミを集積所へ運ぶ。 ②月2~4回電話による「お元気確認をする」。 ③1~2回自宅に訪問して、お話相手をする。
13	隣接町会における活動「まきば声かけネット」による訓練実施に際して事務局を担当し認知症の人に対する理解を促し、安心して暮し続けられる町を目指す。

《サロン》

1	会館を利用し、お茶やコーヒー、それに茶菓子等を用意し、全体の時間を2時間と設定しましたが、ただ談笑するだけでなく、参加されるお寄りの皆さんに参考になるような話をできる方をゲストとして招き、ミニ講演的に話をさせていただくことにしました。
2	毎月高齢者サロン、子育て支援(民生、高支相、健康推進員) 交流→1回のグランドゴルフ等の集い他
3	毎月2回借用した居間をサロンとして町内高齢者が自発的に集まり茶話会、カラオケ、食事会などで交流している。(孤立化予防)
4	毎月1回、県営住宅の集会室で開催している。介護予防指導者さんと体操したり、歌を唄ったり、クイズ等
5	2ヶ月に1回開催している。5,6,7町会合同で各町会当番制で行う内容は踊り、パートナー講座、楽器演奏、お茶会、誕生会、合唱ストレッチ体操、ビンゴゲーム等
6	70歳以上の独居者、月に1回集会所で会食会
7	町会内に住む高齢者を対象に、お互いの持っている知恵、知識を出し合い、教えたり教えられたりしながら過ごすサロン活動。
8	・対象年齢は問わないが、ボランティアを除き、全員高齢者。 ・内容 ゲーム、歌、折紙等手作り、外出等隔に子ども達招待。
9	従来からのいきいきサロンは全員女性で男性が参加しづらいことがあった。故に男性だけに限ったものではないが、将棋、囲碁、マージャン等を中心としたサロン会を。
10	毎月第1月曜「喫茶花水木」、第3木曜「憩いの場」の月2回サロンを開いている。「憩いの場」では住民の作品展示、芸能の発表等のイベントを行ったり、「喫茶花水木」では折紙、フラワーアレンジメント等の講習会や福祉等の講演会を行っている。子どもから老人まで住民の交流活動。

11	認知症の方とご家族、認知症に関心のある地域の方を対象とし、①専門職からの情報提供、②コーヒータイトム、③団らん、おしゃべりタイトムを設け、参加者が集い、お互いが話ができる関係を構築していく。
12	地域桜まつり、自治会の行事（敬老会、記念行事）国際交流

《子育て支援》

1	・保育園ではわらべうたを ・まつぼっくりへも年1回行きわらべうた、昔のあそびを一緒に楽しんでいます。 ・小学校教科として、わらべうた、昔の遊びを子どもたちに教えています。 ・子ども会、坂川献灯まつり、六実っ子まつり等では、主に昔の遊びを一緒に楽しんでいます。
2	年に1回児童館を会場に、地域（町会・民生委員・保育園・児童館）の人々が連携しながら縁日を開催している。近隣の子ども達にコーナーで遊んでもらったり紙芝居を見せている。
3	松戸市内のおよこDE広場、保育所、幼稚園での絵本読み
4	地域の親子と在園児との交流を行う。（リトミックの専門講師、保育士による絵画製作、運動あそびなど親子で触れ合いながら交流していく）
5	発達障がいのある子ども達も参加できる体操教室、学校の体育の授業で行っている種目のサポートをしています。
6	子ども（未就学児童）とその保護者が気軽に集い、友達づくり、情報交換等に利用でき広場の提供（ふれあいあそび、制作、お話し会、測定等
7	・月1回絵本の読み聞かせ ・地域の子育て中の母と子に話をしてゆっくりできる場を提供する。（およこカフェ） ・年1回ホールを使って親子が楽しめるコンサート
8	新松戸ベビーホームを開放して約10年間続けてきた地域子育て支援「ふれあいルーム」の後継活動として、子育ての様々なテーマを取り上げて、保育園での取り組みを紹介する参加型セミナー。
9	悩みのある保護者が事務所に来たり、また担任では相談に対応できないときは施設長が時間をゆっくり取り、対応している。
10	1. 不登校の子どもたちがきて、大学生ボランティアと交流しながら元気を回復することをめざす 2. 親たちの話を聞き、相談にのる、必要な情報を提供する
11	①平成25年より就学前の幼児を考える保護者相談を行っている。今年度から隔週で3ヶ月1クールとして計6回で親の育ち支援としてグループワークを行う予定 ③ 談員等への研修は年に2回セミナー、年6回事例検討会を行っている。
12	・毎月1回園内のホールや園庭で体操や視聴覚、歌やゲーム、製作等を行っている。 ・音楽は年2回、音楽講師が歌やリトミックを提供する。 ・年1回の観劇会に2歳以上の希望家庭を招待している。 ・育児相談は年1回臨床心理士が育児での悩みを聴き、アドバイスをする。

13	主に0歳～就学前の乳幼児向けに子育て支援の拠点施設として館内を無料開放しています。松戸市認定の子育てコーディネーターが子育てに関する様々な悩み、相談を受け付け、地域の子育て支援施設や専門機関につなげている。
----	---

《世代間交流》

1	・農業体験（さつまいも）苗150本収穫祭 ・新入学、敬老の祝い ・盆踊り、夏祭り ・地域歳末警戒 ・連合町会運動会参加
2	2010より開始した。商店街の盆踊りの廃止などで地域の世代間交流がなくなり、子ども会の保護者中心として、地域の商店街等の協力により実施。々参加者が増加。
3	「暮しの芸術都市」の創生をテーマに、私たちみんなが日常的に行っている生活の営みを芸術として据え直し、多様な住民の手によりまちづくりに取り組んでいる。「松戸ラストサマー盆踊り」などの企画を通じ地域住民のコミュニティづくりに取り組む他、国内外のアーティストを招き交流する「PARADISE AIR」など、まちづくりやアートを横断する様々なプロジェクトに取り組む
4	小金原に育つ子ども達が住み続けたくなる様な町、又地元へ戻って着たくなる様な町になるきっかけとなる様に思いを求めていくもので、地元出身のミュージシャンやライブや地元中学生の吹奏楽の演奏、もちつき大会、書道、吟等を行う。
5	町民が文化、芸術活動で作製した作品の発表の場、クリスマスツリーや手づくり絵はがきの製作を子ども達に教える体験の場及び模擬店でふれあう場を提供し、町民の交流を図る。
6	青空市（マンション近辺の人も参加可）、クリスマスキャロル（マンション中庭にて合唱）
7	世代間交流としてグランドゴルフ及び軽スポーツ（5種）の実施。
8	・保育園ではわらべうたを ・まつぼっくりへも年1回行きわらべうた、昔のあそびを一緒に楽しんでいます。 ・小学校教科として、わらべうた、昔の遊びを子どもたちに教えています。 ・子ども会、坂川献灯まつり、六実っ子まつり等では、主に昔の遊びを一緒に楽しんでいます。
9	前年度までに開催した日本文化子どもクラブで体験を重ねた中学生以上の青少年と海外からの留学生との交流しながら日本文化を体験してもらいそれぞれに語学の勉強につなげる。
10	保育園夏まつりに地元のガールスカウトの中学・高校生をボランティアとして受け入れ、ヨーヨーコーナーやテントコーナー等の運営をしてもらった。
11	年1回社会福祉協議会の依頼により独居老人と園児が昔の遊び、園児の歌を聞いたり、一緒に行い昼食を楽しむ。

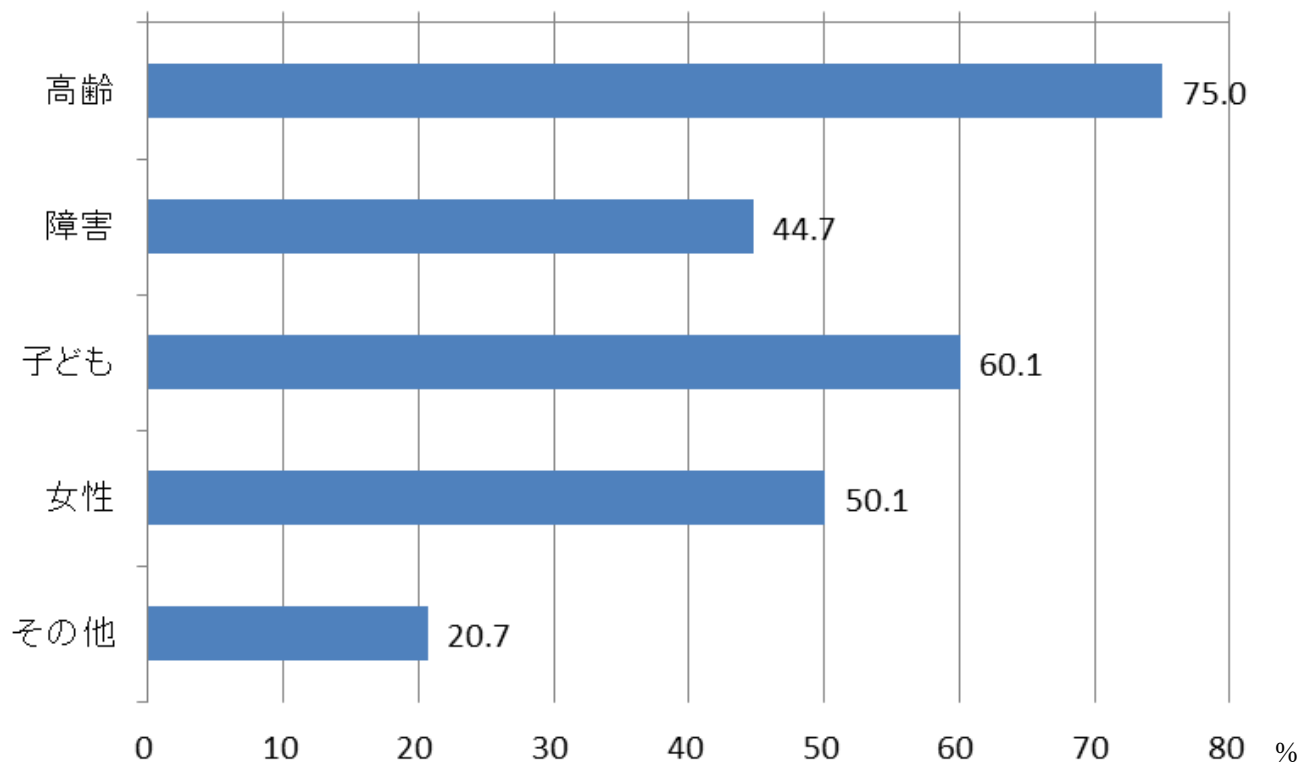
《文化・芸術》

1	市内各所の福祉施設でのボランティア演奏会や、森のホール市民会館市民劇場のサポートがないので音楽会への出演等で地域との交流を計る。
2	年間17回前後の回数で様々な日本文化を体験し、興味を持った日本文化を継承しその文化を伝承してもらおう事を目的として、次世代を担う青少年を対象にし、そしてその親御様にも同時に学んでもらう活動を事業としています。

3	年2回坂川で実施される献灯まつり、桜まつりの開催及び坂川の美化活動。
4	演劇を中心とした公演活動を実施している。
5	「自然体験・ものづくり体験事業」「障がいある人との交流で心のバリアフリー」を推進する事業 「乳幼児の親子を対象とした子育て支援事業」「文化・芸術にふれる体験事業」「復興支援事業」
6	東葛地域に伝わる民話を語り、朗読、紙芝居等で子どもや大人に伝える。
7	地域の各町会と連携して桜まつり、盆踊り、敬老会、運動会を行い、ふるさとづくりに役立てている。
8	七丁目町会、五番街、西パークの交流会開催（4回/） 花ももの会（3回/） 共同事業で、文化祭展示会、音楽会（2に1度）開催
9	毎11月下旬5日間に亘り実施。自治会会員が製作した絵、写真、書などを展示。四重奏などのパフォーマンスも導入。
10	小金原に育つ子どもが住み続けたいくなる様な町、又地元へ戻って着たいくなる様な町になるきっかけとなる様に思いを求めていくもので、地元出身のミュージシャンやライブや地元中学生の吹奏楽の演奏、もちつき大会、書道、吟等を行う。
11	町民が文化、芸術活動で作製した作品の発表の場、クリスマスツリーや手づくり絵はがきの製作を子ども達に教える体験の場及び模擬店でふれあう場を提供し、町民の交流を図る。

(3) 対象者(複数回答)・・・「高齢者」、次いで「子ども」、「女性」に対して取り組んでいる団体が多い。

回答数：561



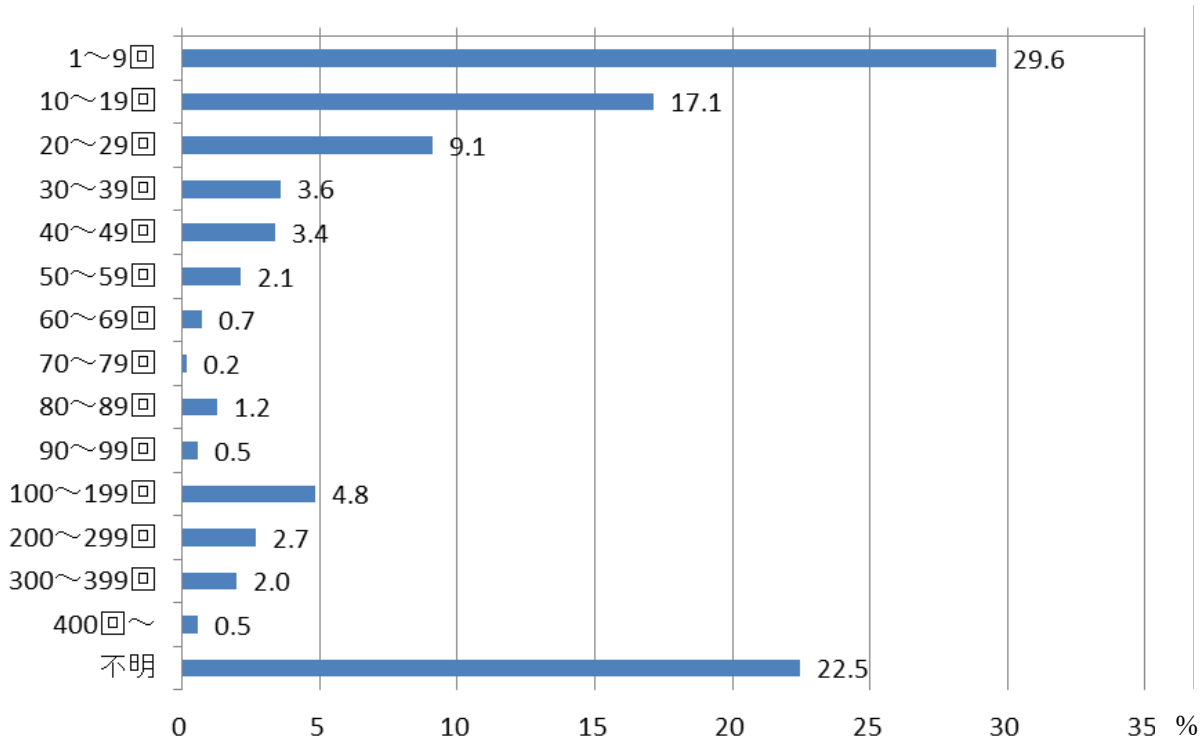
◆団体種別 (取り組み数)

	民間企業	複合サー ビス	福祉関係機 関	市民活動登 録団体	地域団体	町会・ 自治会	計
計	13	28	85	180	140	960	1406
1 高齢	5	10	29	48	52	277	421
2 障害	3	1	9	34	34	170	251
3 子ども	2	9	25	39	20	242	337
4 女性	3	8	13	38	21	198	281
5 その他	0	0	9	21	13	73	116

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

(4)開催数(回/年)・・・取り組みの頻度は、「年に数回」が多く、次いで「毎月1回」取り組んでいる団体が多い。

回答数：561



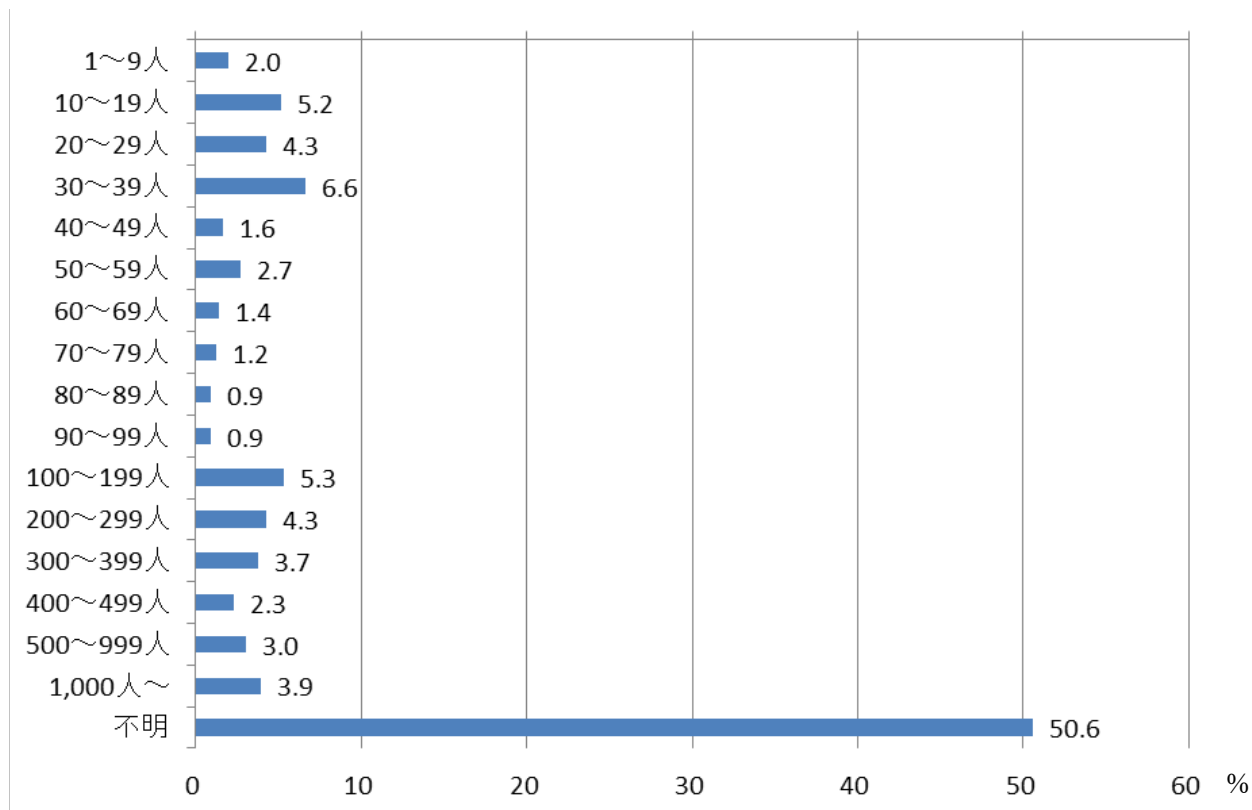
◆団体種別 (取り組み数)

	民間企業	複合サービス	福祉関係機関	市民活動登録団体	地域団体	町会・自治会	計
計	6	14	49	63	75	354	561
1 1～9回	1	0	16	18	23	108	166
2 10～19回	1	1	8	13	10	63	96
3 20～29回	0	1	8	4	6	32	51
4 30～39回	0	1	2	3	1	13	20
5 40～49回	0	0	0	3	4	12	19
6 50～59回	0	0	1	1	2	8	12
7 60～69回	0	0	0	1	0	3	4
8 70～79回	0	0	0	0	0	1	1
9 80～89回	0	0	0	2	1	4	7
10 90～99回	0	0	0	1	1	1	3
11 100～199回	0	0	1	7	4	15	27
12 200～299回	1	0	0	2	2	10	15
13 300～399回	0	0	4	1	1	5	11
14 400回～	0	0	0	0	2	1	3
不明	3	11	9	7	18	78	126

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

(5) 利用者(会員)数・・・取り組みに参加する利用者は、「100名以上」が約2割、「49名以下」が約2割であり、取り組みの内容や年間の開催数によって利用者の規模が異なる。

回答数：561



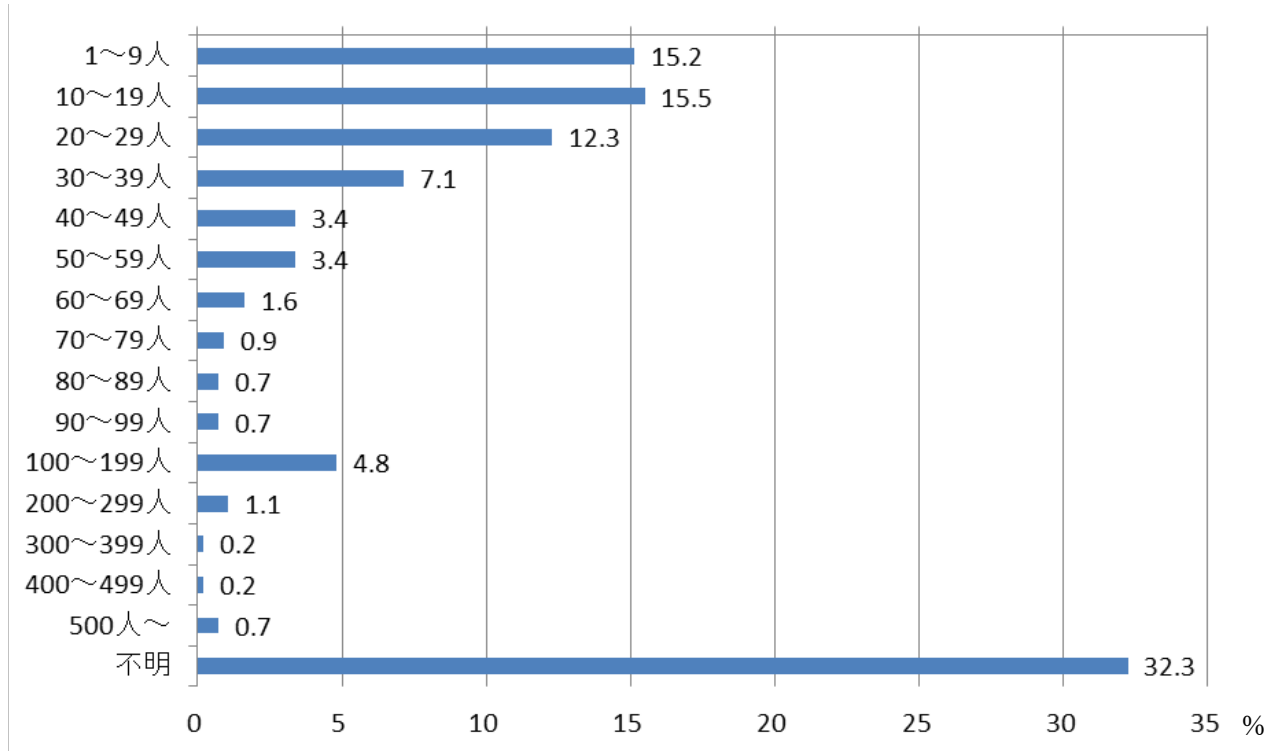
◆団体種別 (取り組み数)

	民間企業	複合サービス	福祉関係機関	市民活動登録団体	地域団体	町会・自治会	計
計	6	14	49	63	75	354	561
1 1～9人	1	0	2	2	0	6	11
2 10～19人	1	0	4	3	7	14	29
3 20～29人	0	0	4	2	4	14	24
4 30～39人	0	0	6	6	4	21	37
5 40～49人	0	0	1	0	2	6	9
6 50～59人	0	0	1	4	3	7	15
7 60～69人	0	0	1	0	4	3	8
8 70～79人	0	0	0	0	1	6	7
9 80～89人	0	0	1	1	2	1	5
10 90～99人	0	0	0	2	1	2	5
11 100～199人	0	0	2	9	6	13	30
12 200～299人	0	0	2	5	4	13	24
13 300～399人	0	0	3	2	1	15	21
14 400～499人	1	0	1	2	3	6	13
15 500～999人	0	2	0	4	1	10	17
16 1,000人～	0	0	3	8	6	5	22
不明	3	12	18	13	26	212	284

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

(6) 従事者数・・・「29 名以下」の団体が 42%であり、市内における地域活動の担い手は、比較的小規模な団体が多い。

回答数：561



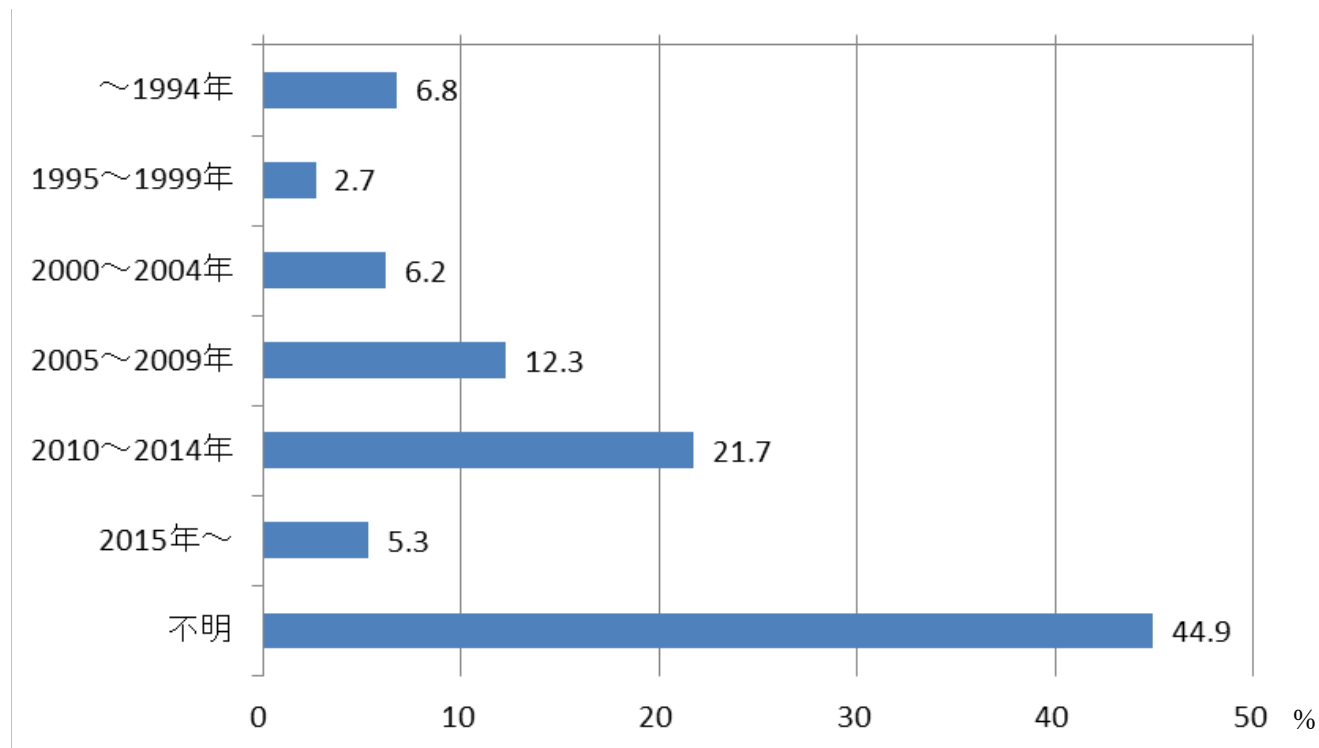
◆団体種別（取り組み数）

	民間企業	複合サー ビス	福祉関係機 関	市民活動登 録団体	地域団体	町会・ 自治会	計
計	6	14	49	63	75	354	561
1 1～9人	0	1	19	13	12	40	85
2 10～19人	0	0	5	10	11	61	87
3 20～29人	1	0	4	9	15	40	69
4 30～39人	0	0	2	2	11	25	40
5 40～49人	0	0	0	2	3	14	19
6 50～59人	0	0	0	3	2	14	19
7 60～69人	0	0	0	4	2	3	9
8 70～79人	0	0	0	2	1	2	5
9 80～89人	0	0	0	0	1	3	4
10 90～99人	0	0	2	1	0	1	4
11 100～199人	0	0	0	6	2	19	27
12 200～299人	0	0	0	2	1	3	6
13 300～399人	0	0	0	0	0	1	1
14 400～499人	0	0	0	0	0	1	1
15 500人～	1	0	0	1	1	1	4
不明	4	13	17	8	13	126	181

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

(7) 活動開始時期・・・「5,6年前」から取り組んでいる団体が約2割、比較的に新しく取り組みを始めた団体が多い。

回答数：561



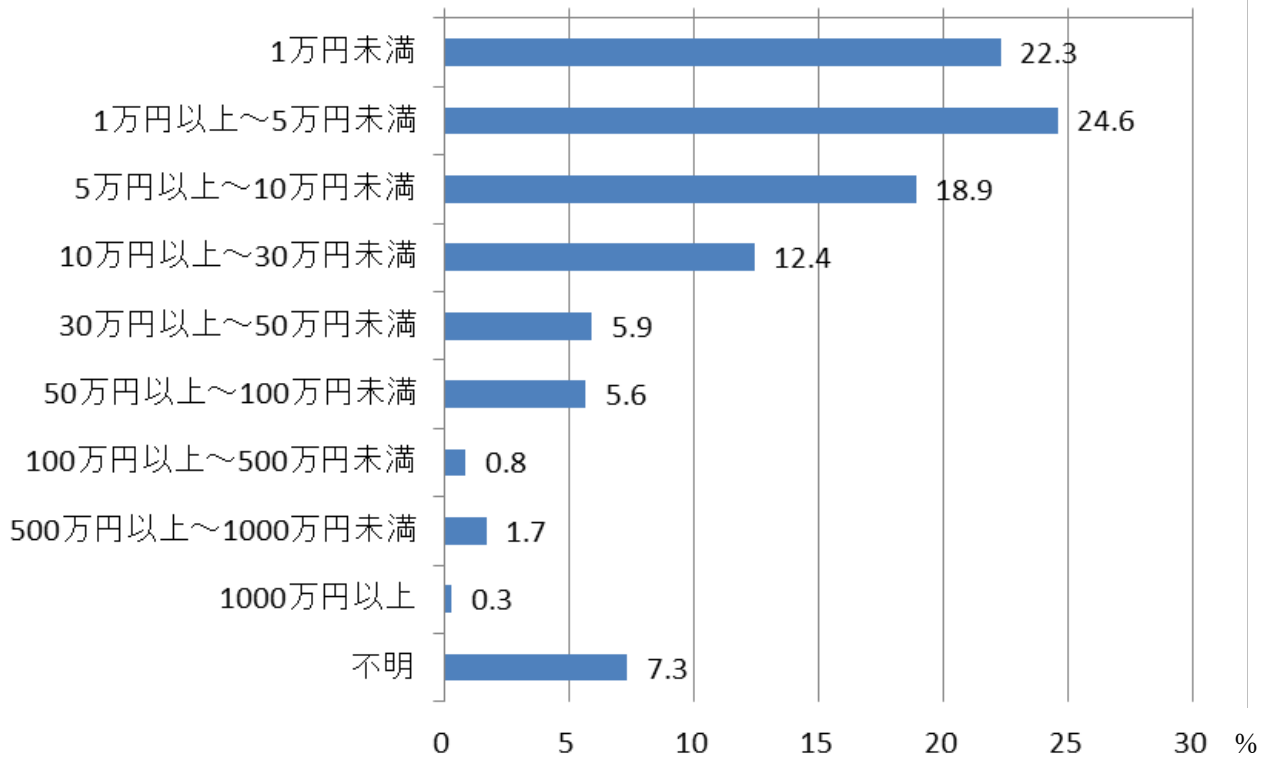
◆団体種別（取り組み数）

	民間企業	複合サービス	福祉関係機関	市民活動登録団体	地域団体	町会・自治会	計
計	6	14	49	63	75	354	561
1 ～1994年	0	0	1	6	11	20	38
2 1995～1999年	0	0	0	3	6	6	15
3 2000～2004年	1	0	2	10	5	17	35
4 2005～2009年	0	2	8	13	12	34	69
5 2010～2014年	1	0	19	22	10	70	122
6 2015年～	0	0	2	2	1	25	30
不明	4	12	17	7	30	182	252

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

(8) 活動経費(町会・自治会のみ)・・・町会・自治会が行っている取り組みの活動経費は、「5万円未満」が47%で最も多い。

回答数：354



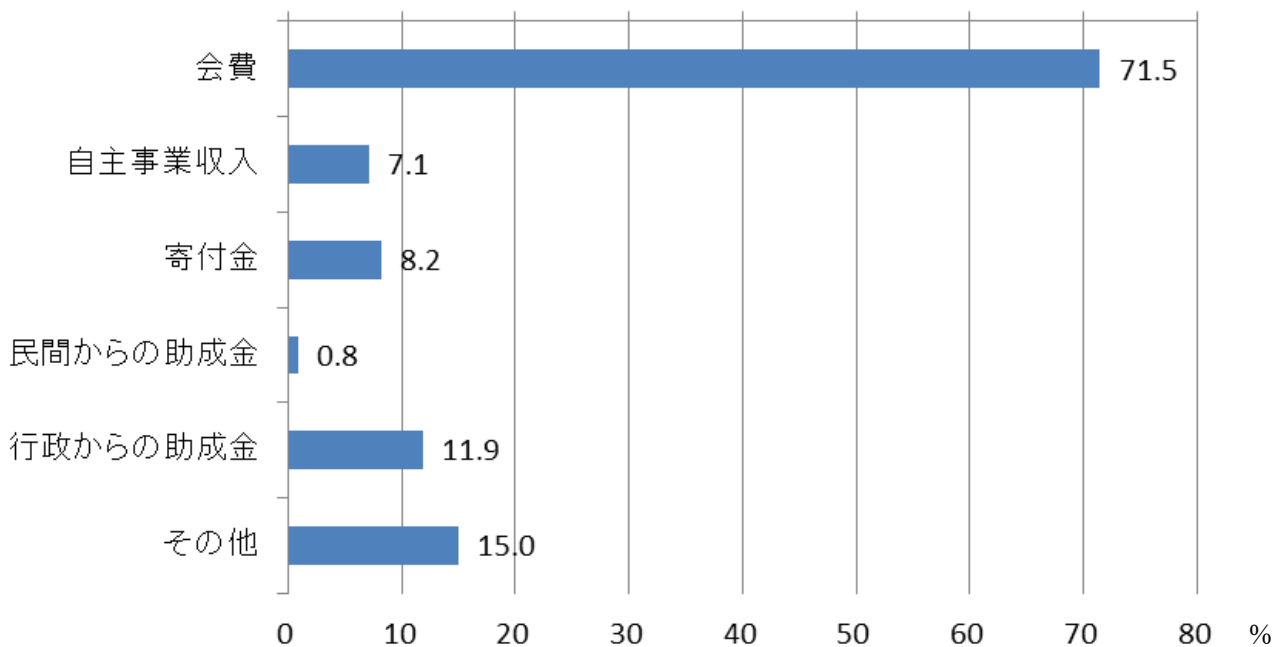
◆団体種別 (取り組み数)

	民間企業	複合サービス	福祉関係機関	市民活動登録団体	地域団体	町会・自治会	計
計	—	—	—	—	—	354	354
1 1万円未満	—	—	—	—	—	79	79
2 1万円以上～5万円未満	—	—	—	—	—	87	87
3 5万円以上～10万円未満	—	—	—	—	—	67	67
4 10万円以上～30万円未満	—	—	—	—	—	44	44
5 30万円以上～50万円未満	—	—	—	—	—	21	21
6 50万円以上～100万円未満	—	—	—	—	—	20	20
7 100万円以上～500万円未満	—	—	—	—	—	3	3
8 500万円以上～1000万円未満	—	—	—	—	—	6	6
9 1000万円以上	—	—	—	—	—	1	1
不明	—	—	—	—	—	26	26

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

(9) 財源(収入源)(町会・自治会のみ)(複数回答)・・・町会・自治会の取り組みを支える収入は、「会費」が最も多い。「その他」の内容は、支出のある都度、会員個人が負担している町会・自治会が多い。

回答数：354



◆団体種別 (取り組み数)

	民間企業	複合サービス	福祉関係機関	市民活動登録団体	地域団体	町会・自治会	計
計	—	—	—	—	—	405	405
1 会費	—	—	—	—	—	253	253
2 自主事業収入	—	—	—	—	—	25	25
3 寄付金	—	—	—	—	—	29	29
4 民間からの助成金	—	—	—	—	—	3	3
5 行政からの助成金	—	—	—	—	—	42	42
6 その他	—	—	—	—	—	53	53

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

(10) 活動メリット(自由記載)(抜粋)・・・以下、原文のままの掲載となります。
《まちづくり》

1	・ 出前講座を開催する事で、社会事象に追い越されない ・ 体操で寝たきり防止、介護対象者の防止、保険料減
2	従来からの住民と新しく住民となった人との交流に役立っている。子供たちにはふるさと作り、お年寄りの生きがいを目指している。
3	・ 地域住民の生活の安心・安全に役立っている。 ・ 地域の情報を知ることに役立っている。 ・ 子どもの非行防止に役立っている。
4	町内のコミュニケーションの活性化
5	防犯抑止 警察、市の生活安全課とのつながり情報
6	松戸駅周辺地域の良好な都市空間の創出。地域交流を通しての活性化、まちづくりの具現化。
7	事業に参加することでコミュニケーションがとれる。
8	日常の挨拶が活発化した。一人暮らしの人が明確になった。小学校の入学児がわかる。
9	情報交換コミュニケーションまた地域住民の安全安心に対する意識の向上につながる。
10	高齢者が楽しく活動し、懇談の機会が得られる。
11	子ども、多くの高齢者、障害者等全ての人達が楽しめてくつろげる状態づくりを市民に今回で2回目を迎えたが、見物人も賛助者も増えてきた。
12	四季の花を咲かせ、自然環境を保護することで、町民のいこいの場としている。

《健康・医療》

1	顔の見える関係をつくること。老人会などに参加されていない方々にとってのもう一つの選択肢
2	町内全体が明るくなって居る様に思われます。
3	町内コミュニケーション・協力関係が良くなっている
4	町内は高齢者が多く、話し相手が必要

5	体操は、転倒防止、体力維持、仲間作りができる。敬老祝いは、高齢者の方の把握。
6	新旧隣人との融和が出来る。自分とその取巻く環境を知ってもらえる。
7	高齢者の健康目的に外出と軽運動をすすめる。
8	・高齢者の孤独死の防止。 ・加入者が孤独ではない見守りがあると云う安心感。
9	地域の高齢者に生きがい、障害者には思いやりを、乳幼児にはやさしさを育てるのが目的。
10	参加者が顔見知りになる。
11	・会員相互のコミュニケーションに役立っている。 ・卓球を通しての健康の増進。
12	自治会の高齢化率は非常に高く、その中で住人の抱える問題を把握し、会長へも報告があがることにより、その対処がより可能に、住人にとって、より見守られるという安心が。
13	5名からスタートした会員が30名に増え、自治会と連携してコミュニティの拡大につながっている。
14	自治会と連携し、高齢者支援の1つとしてスタートし、運動以外（食事会など）のサロン活動に拡大している。

《防犯》

1	地域住民の防犯意識向上、町内治安状況の把握。
2	防犯パトロール（公共施設、コンビニ）を行うことで非行が減少している。小学校の下校時の交差点見守りをするにより防犯に役立っている。地域住民の安全・安心に対する意識の向上、高齢者健康維持につながっている。
3	声かけ見守り等、日々活動することにより交流も深まり地域の現状がよくわかる。
4	町会会員の結束、犯罪抑止（この5年間犯罪0の効果生む）
5	・防犯パトロールを行うことでマンション内のコミュニケーションに役立っている ・子どもの参加によりマンション内の挨拶の習慣が定着してきた。 ・近所の商店街の方々に防犯パトロールが認知されてきた。
6	犯罪防止、会員相互のコミュニケーション。地域住民の安全・安心に対する意識の向上

7	<ul style="list-style-type: none"> ・町内行事として行っているので、安全・安心に対する意識が高まっているものと思われる。 ・子ども会との協力により、若い世代との交流がある。
8	町会内を週に1回周回するだけだがこの町会は防犯に気をつけているんだとアピールしていると思う。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故防止 ・不審者対応
10	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯パトロールを通して、会員相互のコミュニケーションに役立っている。 ・地域住民の安全、安心に対する意識の向上につながる。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを交通事故防止を主な目的に見守る。 ・子どもたちに大声で挨拶し交流を図る。 ・月1回町内パトロールを行う。冬季は20時～21時間の間月1回「火の用心パトロール」を行っている。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・役員、班長が知らなかった情報もたらされることがある。 ・地域の方が防犯に対する意識向上につながる。
13	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯活動を行うことで、ひったくり等の犯罪が少なくなった。 ・地域住民の安全、安心に対する意識が向上している。
14	地域の子どもの補導：地域を見回しする事により、様子や情報を知る事が出来る、安心感を持たれる。

《防災》

1	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の要援護者把握を行う事で、地域の状況が確認出来る。 ・援護する者（役員も含め）を決めておく事で、普段からの声かけ・見守りがスムーズに行われる。
2	町内の防災に対する意欲が向上している。
3	委員を固定化（任期を決めない）したことで、長期的、根本的な検討ができる。
4	火災現場から避難の体験が出来る
5	<ul style="list-style-type: none"> ・防火、防災訓練体験者が増した。 ・見守り、声掛けにて高齢者の元気確認ができています。
6	地域住民が災害時にやるべき事を学び、助け合う心を育てられる。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動、巡回する。 ・見守ることで安心安全につながる。

8	居住者の防火、防災への心構え
9	現在の社会変化に気が付き、共に互助、共助の心が生まれて、防犯等の活動に協力してくれます。
10	・災害時への備え、意識の高揚　・住人同士の交流、知り合い
11	防災に対する住民への意識づけ。
12	災害発生時の安全確保は自助、共助からをテーマを拠点に避難所運営訓練を実施、高齢者含め約160名の参加。
13	・訓練により、相互協力の下、組織的活動が出来るようになる。 ・地域居住者の安全、安心に対する意識の向上につながる。
14	一人暮らし高齢者や高齢者世帯の訪問時に、「あんしんカード」の説明を行い、希望があれば配布して、記入について相談に乗る中で「災害時に対する備え」についての意識を高めていただくことに役立っている。

《相談支援》

1	訪問する事によって話をするチャンスが増え安心出来る。相談は何でも受ける。
2	町内高齢者が多く、話し相手が必要
3	ひとり暮らしの方の訪問は、安否と困った事等、又町会の行事へのさそい、信頼関係ができる。 体操は、転倒防止、体力維持、仲間作りができる。敬老祝いは、高齢者の方の把握。
4	各種相談により適正処理や専門家への紹介により問題を解決。
5	セミナーや相談会を開催する事で高齢者の方々の年金等に関する理解が高まる。
6	地域に必要な情報がより具体的に見えてきた。家族も含め、介護の在り方、認知症に対する理解を示す人が増えてきたと思われる。
7	間口を広げた相談支援を行うことで主に福祉分野における個人のニーズや地域の課題を把握しやすいところにメリットがあると考えている。
8	ワンストップ窓口として関係機関へのつなぎ、多職種連携
9	地域で抱える諸問題(相談)をたらい回しにすることなく、各機関と連携、調整を行っているため、行政、医療、介護、公的機関との連携が取りやすい。

10	・相談員の資質向上 ・相談業務により保護者の心の安定につながっている
----	---

《就労支援》

1	<ul style="list-style-type: none"> ・紙袋作製、小型家電のリサイクル等軽作業に障害者従事することにより自立を支援。 ・家にとじこもりの人を活動に向け支援 ・軽作業で得た利益は利用者へ報酬として配分
2	子ども・大人・高齢者・障害のある人に対してパソコンの操作方法やインターネットの使い方をわかりやすく指導し、それによって便利で快適な生活を送れるよう勧めています。
3	松戸市にお住いの特に子育て中のお母様方に対し、再就職支援として在宅パソコン講習を実施し、1年半ほどになりますが、もっと続けたいという方や次の募集時期まで待機しておられる方もいらっしゃる、需要を実感しています。

《人材育成》

1	年に数人が起業を決意する。
2	家にこもっている人を引っ張り出し、ボランティア活動してくれるようめざしている。
3	活動を通して、地域住民相互のふれあいの輪を広げ地域の活性化をはかる。子ども達と大人の関わり合い・楽しさ・達成感を味わってもらい、子ども達の情操教育に寄与する。人と人とのつながりができ地域が明るくなる。
4	毎月定期発行の会報「ときわだいら」を参照。市役所にはそのつど300部を届けています。資料「常盤平団地を支える三本柱」を参照してください。地域福祉課作成の資料等。

《障害者支援》

1	一般の来訪者にも会の存在と活動を知ってもらえる。
2	千葉県視覚障害者福祉協会の活動資金確保の一助になっている。
3	落ち着きのない子（ADHD）が少し落ち着く、ことばのない子が話そうとして表情が明るくなる。色々なことが運動を通して成長につながっていく。また集まるお母さん達も情報交換の場となっている。
4	私達が点訳する事で視覚障害者の方々が情報得ることが出来る。

5	身体障害、知的障害に比べて精神障害や発達障害は外見からは見え難いし、一般に理解してもらうのは容易ではない。積極的に理解してもらうための努力をすることにより、道を拓いていくことができる。
6	心病む人たちや家族は、地域で孤立して暮らしていることが多い。自分の悩みを他人に(身内にも)話せない人たちが、同じ立場にある人同士なら語り合える。地域でのつながりを持つことで孤立から抜け出せる。
7	活動していて楽しい、感謝されてうれしい
8	個々の能力の育成、生きがいつくりで生活の改善
9	ろう高齢者は、ホームや施設に入所してもコミュニケーションが十分に取れないため、孤立していました。この会により、手話コミュニケーションで交流することができ、ろう高齢者がいきいきと楽しんでいます。もっと交流したいと声が上がっています。

《介護》

1	高齢者がより良い暮らしができる為の生活支援をすることと同時に見守り、安否確認を兼ねることができる。
2	地域に必要な情報がより具体的に見えてきた。家族も含め、介護の在り方、認知症に対する理解を示す人が増えてきたと思われる。
3	各員各自、自分のできることに取り組み細く長く続けることをモットーに活動しています。特養の訪問時は2~5名で連絡を蜜にして伺ってます。会員同士の結びつきが強い。
4	地域で抱える諸問題(相談)をたらい回しにすることなく、各機関と連携、調整を行っているため、行政、医療、介護、公的機関との連携が取りやすい。
5	1人暮らしが増えているので情報交換に役立っている。

《声かけ・見守り》

1	見守り等の活動を通じて、地域に暮らす高齢者の安心・安全な生活を支援する。
2	子どもたちへの声かけにより未然に非行防止や交通安全など子どもの被害を防ぐことができる。

3	後見事務は個人としての受任のため報酬及び責任は各個人の事情によるが、行政書士が組織的に成年後見制度に関わっているというスタイルを外部に示すことができるので、業務に対する信頼感を頂きやすいと感じている。
4	高齢又はひとり暮らしの方、介護施設に参加していない方を外出の機会を作り話をし、友達作り、ゲーム等をしながら認知予防になればと思い、少しでも皆さんの役に立てばと活動しています。
5	常盤平で店舗を営業している以上、地域での活動は当然の事でありその事を同時に（社会的価値と組織の価値）出来きます。
6	青年後見制度は支援を必要とする方を支える重要な制度であるにも拘わらず、知らない方が多く、利用度も低い。本活動により、一人でも多くの方に制度の内容を理解してもらいお困りの方の手助けが可能になると考えている。
7	相手が話したことで元気になった時喜びを感じることもあり、又、相手から自分の経験しないことをお聞きして知識を得ることも。そして、多様な価値観を知ることで自己成長につながることもある。地域の福祉に微力ながら貢献できること。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の見守り、声かけ活動で地域で困っている方の発見ができ、関係機関につないでいる。 ・町会、自治会、民生委員児童委員、老人会等と連携し、見守りの必要な高齢者の情報を共有し、地域で見守っていく体制作りが出来る。 ・地区社協の活動（ふれあい会食会、ちょっといっぷく）や町会・自治会のいきいきサロン等高齢者支援活動への協力。
9	各地区の高齢者の見守り・声かけ活動により、地域高齢者の把握ができる。
10	あいさつすることで、互いに気持ちが晴れ晴れする。お声掛けで子どもと近所のおじいちゃん・おばあちゃんが話しをする様になり、小さな会話から安心と安全が生まれるようになった。
11	認知症への理解が深まる。
12	地域社会における高齢者の見守りという視点
13	顔の見える関係をつくること。老人会などに参加されていない方々にとってのもう一つの選択肢
14	安全、安心の街づくりから近隣者の支援活動（おせっかい）信頼関係が重要で本音が出る。

《サロン》

1	<ul style="list-style-type: none"> ・地域情報の共有に役立っている。 ・気軽に集まり、仲間づくりができるような居場所づくりに役立っている。
---	--

2	「歳末ふれあいの集い」を毎年1回開催し、障害者会員、地域障害者、健常者との相互親睦をはかり、あわせて交通安全への啓発活動をする。
3	高齢又はひとり暮らしの方、介護施設に参加していない方を外出の機会を作り話をし、友達作り、ゲーム等を楽しみながら認知予防になればと思い、少しでも皆さんの役に立てばと活動しています。
4	地域で子育てしている母子との交流、現代を生きる子育て家族の悩みや現状を知り、ともに育てあう基盤づくり。
5	父親にも子育て、子どもとの「きずな」を深めてもらう事から始めたが、園の調理室を開放し、子どもと調理し、食事し近隣の子どもや地域の人たちとコミュニケーションが互いに取り合えるようになった。
6	来てくれる人が一番よく知っている。年1回「60代、70代、80代、90代交流会」を市民会館で実施。
7	引きこもらずに出てくるので社会性を維持、健康を維持、仲間作り、地域活性化
8	年に1度ですが、高齢者と民生委員が身近でおしゃべりをする時間です。包括支援センターの方にも来て頂き、相談事にもものって頂いています。小さなグループでの会話はこんなにも弾むものかといつも感じています。ご近所の方とのおしゃべりの必要性を感じます。

《子育て支援》

1	松戸市では、各地域でおやこDE広場を開催しているが、おやこDE広場〇〇は保育所内で開催しているということが特徴である。そのメリットとして、常駐している看護師からアドバイスを受けたり、気軽にオムツ替えや授乳に立ち寄れるという点である。
2	地域の親子に対して開かれた場所を提供し、安心して子育てができるようにする。
3	地域で子育てしている母子との交流、現代を生きる子育て家族の悩みや現状を知り、ともに育てあう基盤づくり。
4	子育ての仕方が分からず悩んでいる若い保護者に自信を持たせ、また子育てが楽しいということが分かり子どもが明るくなったこと。
5	日々の生活の工夫を持ち寄り、楽しく、健全な生活を願っている。社会にもお伝えしていきたい。
6	父親にも子育て、子どもとの「きずな」を深めてもらう事から始めたが、園の調理室を開放し、子どもと調理し、食事し近隣の子どもや地域の人たちとコミュニケーションが互いに取り合えるようになった。

7	学校に行かれないと子どもは精神的に自己評価が低くなり、心身症状を示すようになり、意欲、気力などが低下するが大学生ボランティアと話し合い、遊び、学習する中で元気になり、次へのステップと進んでいく。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同年齢の子を持つ親同士で話したり、一緒に活動を楽しむことで交流の場となっている ・ 開放保育に参加していた家庭が当園に入園することも少くない ・ 友達や知人を誘って参加していきることもあり、参加人数が増えた月もあった
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のお母さん方をはじめ、子育てに関わる方々のお友達づくりや情報交換の場を提供している ・ 子育てに関する悩みや不安を共有したり、相談できる場があることで様々な支援があることを知り、育児疲れや虐待発生の防止に努めている
10	若い夫婦の子育てに多少なりと役に立っている
11	地域の他団体（六実地区の「昔のあそびとあそぼう会」、人形劇団「ずっこけ・ウー」等）との連携ができ、子どもたちや子育て中の保護者に親子一緒に楽しむことの大切さを広めることができた。
12	子ども（母？）達から好評で人気がある。 成人した時にも食生活を大切なことと持ち続ける。 共働きの家庭も多くなり子どもも家族の一員としてやるべきことがある。
13	子育て支援、女性の就労支援
14	育児に関する悩みや不安をなくし、話し合える友人関係の構築を図ることが出来る。又、若いお母さん達との情報が得られる。

《世代間交流》

1	安心安全な街造りと人との信頼感、顔の見える近所づきあい。
2	心の豊さ、楽しさ、想像力を養う要素。将来に向け夢など持ってもらい、元気に活動してほしい。
3	各種イベントによる交流の機会や出会いの場が増えたことにより、住民のコミュニティに対する意識が向上し、コミュニティ活動の活性化に役立っている。
4	自治会全体のコミュニティ形成、親睦、生活環境の向上、住みよい町づくり
5	子ども、多くの高齢者、障害者等全ての人達が楽しめてくつろげる状態づくりを市民に今で2回目を迎えたが、見物人も賛助者も増えてきた。

6	町民一人ひとりが持っている各種の技術技能がわかり、有事の際活用できると同時にコミュニケーションの輪を拡大できる。
7	太鼓を担当する児童、生徒とその保護者、全体の運営を担当する60才以上の高齢者が一体となり運営しており、世代間にコミュニケーションに役立っている。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間の交流、親睦。 ・従事者同志の交流、意見交換。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の住民の方同士との交流の場となっている。 ・高齢者支援における相談の場となっている。
10	<p>活動する事で（福祉施設）元気を与えにいく事が目的ですが、いつも逆に元気と希望と勇気、生きがいももらっています。</p> <p>（コンサート出演）練習の励みにもなり、地域との交流を深め充実した人生を送れます。</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> ・時間に余裕のある学生が専門である園芸を通して地域貢献できる ・世代間交流が出来る

《文化・芸術》

1	心の豊さ、楽しさ、想像力を養う要素。将来に向け夢など持ってもらい、元気に活動してほしい。
2	ふるさとづくりを目標に開催日程を当初から家族の交流の最も深まるお盆の時期に定め、老若男女が楽しめ集まるイベントとした。
3	町民一人ひとりが持っている各種の技術技能がわかり、有事の際活用できると同時にコミュニケーションの輪を拡大できる。
4	青少年にとって知らなかった日本文化を体験する事で興味を持ってもらい、継承出来る。そして日本文化を学ぶ事でおもいやりの心を養い、他の人をおもてなしする事の喜びも養うことが出来る。
5	参加する日本文化子どもクラブの卒業生は他国の留学生に日本文化を伝える事、参加する日本文化子どもクラブの留学生は日本文化を学びながら日本語の勉強をする。日本の青少年も語学の勉強につなげる事が出来る。

(11) 活動当初と比較して変化したこと(自由記載)(抜粋)・・・以下、原文のままの掲載となります。

《まちづくり》

1	町内事業に対する感心が変わって来ている様に思われます。
2	参加者が増えてきている。実施内容が増えているため予算面で苦しい。
3	・ ボランティア参加者が増加した(参加意識の高揚) ・ 若手層の増加
4	参加者が増えてきた
5	全員が高齢になってきて脱会する人が多くなり、会員が呼びかけても加入者が増えない。
6	地域の活性化に貢献大： 少子高齢化に向け、子ども会の同一化見守りの強化に結びつく
7	継続することが大事。理解され参加者も少しずつでも増える傾向にある

《健康・医療》

1	日も浅いため目立った変化はまだ見えてこない。
2	・ まだまだこのシステムを理解していない町会員も多数おられます。 ・ 今後も機会があるごとにシステムの説明をして拡充に勤めていく方針
3	増員がなかなか難しい感があり
4	地域住民の認知度が高まった。
5	対象者の大幅増。
6	・ 少子高齢化が進み参加者(利用者)の減が始まった。 ・ 元気な高齢者が増え始めた。
7	・ 少しずつ町会会員への認知度が高まっているように思われる。 新しいメンバー(会員)が加入した。
8	2008「アクティブライフスタイルクラブ」としてスタートし「元気運動講習会」を開催した。継続希望が多く月2回の実施となる。2011 高齢者対象の「らくらく運動講習会」をスタートさせ、会場の広さから見て、ほぼ満員の状態となっている。

《防犯》

1	パトロールの認知度が高まった。
2	多少若い人達に関心を持ってもらえた。
3	活動を継続していくうちに地域住民の認知度が高まった。
4	町会の全世帯の人々が防犯防災弱者に対する認識が変り、早期に手を打つ事が出来た。
5	交通事故の減少と変質者などの減少
6	毎回、回を重ねるごとに従事者の認識も向上してきた。
7	朝の声かけが出来る様になってきたように思います。
8	町内事業に対する感心が変わって来ている様に思われます。
9	活動を継続していくうちに下部組織（子供会）（老人会）の参加が多くなった。
10	シルバーボランティアによるもの。活動者の減少があり、増員の見込みが望めない。
11	・青パトは17町会の持ち回りであるが車輛から広報したり、パトロールで地域の防犯意識高揚、不審者への侵入防止等役立ち
12	特に変化なし
13	実施中、町民からの声掛けも増えたとし、防犯指導員の意気込みも変ってきた。

《防災》

1	要支援者については、従来から住民届に記載されていたが、ファイル化されて一貫性がないため、実用的ではなかった。マップとして可視化することにより、必要な情報が一目瞭然になった。
2	立ち上げたばかりである。
3	全体的に住民の高齢化のためこれからが大変と思っている。
4	毎一度の実施が定着化してきた。

5	親睦感が出来て活動しやすくなった。
6	居住者の関心が低いため、訓練の参加者が少ない。
7	各種活動を継続していくうち、会員の認知度が高まり、事業に対する理解と協力の下、一定の充実が図られてきた。
8	地域住民の認知度が向上した。
9	防災訓練は参加型訓練とし、全員実習してもらおう。意識の高揚。
10	変化なし
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町会内住民は声掛けに対してかなりの反応が現れてきた。 ・ 継続していくことにより、地域内住民の認知度がかなり高まってきた。 ・ ボランティア仲間の増加を望んでいる。
12	参加人数が増加している。
13	団地内住民相互のあいさつが行われるようになり、高齢者の見守りも兼ねて行われるようになった。
14	マンション内”あいさつ”が自然に行われるようになった。

《相談支援》

1	協力者が増えた。地域住民の認知度が高まった。
2	支援していた人が支援される代に入ってきた
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民相互のあいさつが日常的になった。 ・ アンケートでは、同一段階の住民相互の認知度（知っている割合）が60%以上になった。
4	わずかではありますが、相談者からの紹介による予約が増えた。
5	認知度の向上。
6	当初は年金関係だけであったが、高齢者の住いや介護関係にも対象が拡大した。

7	提供する情報等よりも、より具体的に必要を感じる情報・知識の要素が増えてきた。
8	10年間様々な相談支援を展開してきたことで地域の関係者や関係機関トネットワークが形成され、相談支援体制の構築や整備につながっている。
9	・従事者（相談協力員）の不足及び高齢化が進んでいる。
10	高齢者からの相談や見守り対象者の様子から、必要であれば委員の判断で包括支援センター等公的機関につなぐことができるようになった。
11	15年前に発足しましたが、当時は0からのスタートで、今は民生児童委員・町会等と連携を取り、支援活動が出来ている。

《就労支援》

1	当初は知的障害者が利用者の殆どであったが、種々の障害者を引き受けることによりお互いに助け合うなどコミュニケーションの効果も上がっている。発達障害者にも好結果が見られる。
2	年々情報機器が変化し高度になっていく中、一生懸命高齢者の方々も勉強され、いろいろとご相談にいらっしゃいます。
3	助成事業（松戸市）として1年間「子育て中の母親のための在宅パソコン講習」が認知されてきたことと口コミで広がっており広告をせずに受講生が集まっているので最初の頃とは大きく変わったと思います。
4	・2009年当時かしわ地域サポートステーションは女性の比率が高かった。現在は男性の比率が高い ・年齢が高くなってきている

《人材育成》

1	水道や水洗いのトラブル、電気のスイッチ(コンセント)等、専門的な内容が増えた。棚をつけたいという大仕事もやります。
2	参加者の意識・年代が変わり大きく変わった。他団体との協働事業として実施。
3	手話がまだまだ認知されてなかったが、手話が認知されて市民にも関心が高まり、法律にも手話は言語と認められるようになりました。(平成23年)またろう者のアイデンティティの向上に一役買っている。
4	若い世代をどのようにして参加していただく事が課題としてある。

5	増員がなかなか難しい感があり
6	活動 22、川の浄化について改善されてきている。
7	町会だけではなく近隣から多勢参加。子ども（小学生以下）300人
8	活動を継続していくうちに小学生が中学、高校生になり、次の世代をリードしていけるようになった。
9	年々情報機器が変化し高度になっていく中、一生懸命高齢者の方々も勉強され、いろいろとご相談にいらっしゃいます。

《障害者支援》

1	活動を続け各地区のふれあい広場等に参加して、本の展示や会のアピールを行って来たことで、本だけでなくカルタ、百人一首の拡大の依頼等も来るようになった。
2	当初は知的障害者が利用者の殆どであったが、種々の障害者を引き受けることによりお互いに助け合うなどコミュニケーションの効果も上がっている。発達障害者にも好結果が見られる。
3	介護保険が始まる迄は障害の有る方、リハビリ教室を卒業された方が多かったのですが、現在は施設には行けないが家の中でテレビ相手の方、外出する事が少ない方等が参加されて、ゲーム、手芸、歌を唄ったりして楽しいと云われる方が多いです。
4	4回の開催ですから、当初との比較でもありませんが、出席メンバーも増え、徐々に地域での協力と連携への意識が芽生えて行くように感じています。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・以前はピクニック等、戸外での交流と屋内での交流の年2回あったが、今は屋内のみ1回。（双方の高齢化、ガイドヘルパーの確保の困難等による） ・当初は点訳会と朗読奉仕会がサービスを提供するだけだったが、今は視覚障害者も共に企画、運営に携わっている。
6	徐々に視覚障害以外の障害者の参加もあるようになってきた。

《介護》

1	地域に高齢者支援連絡会の認知度が高まった。
2	包括支援センターの周知が少しずつ拡大してきたため、相談件数など増加してきた。
3	どの活動も少しずつ参加人数が増えています

4	<ul style="list-style-type: none"> ・安定的にサービスを提供できており、地域での認知度は定着している。 【居宅介護事業】 ・新たな依頼は月2、3件。ときに他事業者を紹介することもある。 【通所介護事業】 ・個々の利用者に応じ多様なプログラムが好評で、継続する利用者が多く、新規希望者を受け入れきれないこともある。
---	--

《声かけ・見守り》

1	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を継続していくうちに地域住民の認知度が高まった。 ・当初は協力者が19名だったが様々な周知を図った結果、23名まで増えた。
2	各種活動を継続していくうち、会員の認知度が高まり、事業に対する理解と協力の下、一定の充実が図られてきた。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・町役員が推進役となるので、高齢化が進んでいる。若い人の町役員への加入が待たれる。 ・町民の交流が良くなっているように見えるが、もう一段を期待したい。
4	地域住民の認知度が少しずつ向上している。
5	最初はあまり関心がない感じであったが、最近は挨拶も頻繁にかわされるようになってきた。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・町会内住民は声掛けに対してかなりの反応が現れてきた。 ・継続していくことにより、地域内住民の認知度がかなり高まってきた。 ・ボランティア仲間の増加を望んでいる。
7	見守りの方が高齢化し、人数も減少。現在39人（ほとんどが75才以上）
8	団地内住民相互のあいさつが行われるようになり、高齢者の見守りも兼ねて行われるようになった。
9	マンション内”あいさつ”が自然に行われるようになった。
10	当初は75才以上の独居の方の予定でしたが、日中独居も加えた。その後、75才以上の夫婦世帯もお誘いすることになった。
11	活動が認知されるにしたがって、声かけ、お話相手の利用者が増えてきた。ゴミ出しも気軽に頼めるようになった。

12	施設にある資源を活用することで地域の方々からのサポートが得やすくなってきた。地域と施設の距離が近くなり、相互理解が進んだように感じる。
13	地域住民の高齢化が進み、見守り支援としては頻度をもっと増やす必要性を感じているが、民児協内の高齢化、成り手が不足して来た。
14	見守り活動が高齢者のみとは限らない状況が最近みられる。

《サロン》

1	・ ボランティア参加者が増加した（参加意識の高揚） ・ 若手層の増加
2	サロンボランティアが全て面倒みなくとも、自分たちで出来ることを自発的に分担するようになった。
3	サロン開催を通して小グループでのマージャンをする会や、リサイクルクラブ等毎週開催しています。
4	内容については毎回いろいろと考えて行っているので、参加された方々に大変好評です。
5	増員がなかなか難しい感がある
6	異年齢あそびを通じて、それぞれ目的が達成しつつあり、会を作って良かった。
7	高齢者がより多くなり、活動内容が制限される。
8	サロン開始から、5が経過して、男性が参加しやすいようなサロンをめざし、自由に遊ぶをテーマとして「サロン遊心」を開始、両サロンとも少しずつでは有るが、参加者が増えている。
9	活動当初に比べ、一人暮らしの高齢者、高齢の夫婦世帯が大変増えてきた。いろいろなイベントをすることで、参加者を増やす努力はしているが、参加者が固定化してきている。
10	参加者の多くは、老人クラブや会食等、他の活動に関与しており、当初の目的と乖離してきた感がある。参加者数も減少気味である。

《子育て支援》

1	・ 活動当初は参加人数がとても多かったが、ここ数年参加人数が減少してきている ・ 保護者の参加意識も当初は親同士でおしゃべりが多く、こどもを放っておく姿がみられたが、ここ数年はこどもと一緒に楽しみたいという姿勢がみられ意欲的である
---	--

2	来場者数の増加
3	<ul style="list-style-type: none"> ・長年にわたる子どもをとりまく社会環境の変化に対応するために会の組織を共益型から公益型に転換した ・ミッションに対する支持者も多く、支援者、参加者ともに増えている
4	関心を持つ人が増えた。
5	地域を増やし、協力団体も増えた。参加人数（利用者）も増えてきた。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・参加親子の減少 ・活動利用者が保育園に入園、又は一時保育を利用するようになった
7	活動場所も増加し、昨年度は諸団体とのプロジェクトにより、人形劇団を招き子どもたちに昔話の楽しさを伝えることができた。
8	消費生活展で子ども達が一瞬懸命見ていた。来年応募したら、と声かけした。
9	利用者が年々増えている。地域以外の方も来ています。赤ちゃんの父親も参加しています。

《世代間交流》

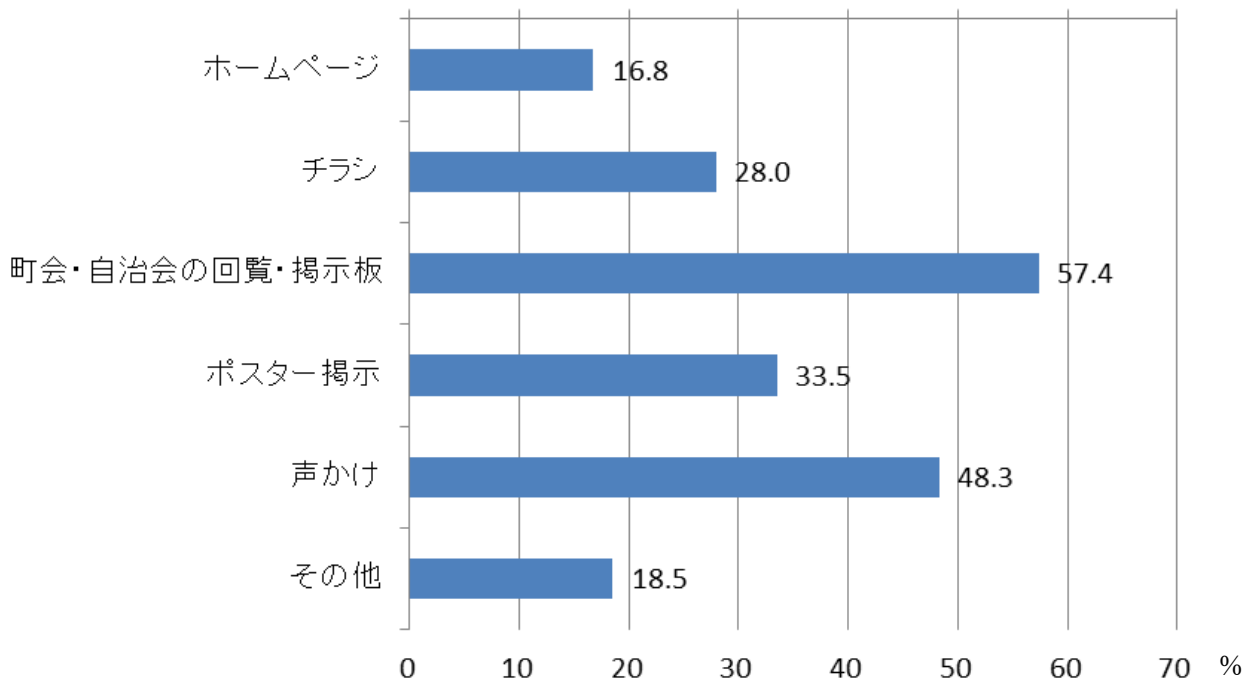
1	次第に輪が広がってきて、児童やボランティア団体との交流が行われている。
2	今年度から開催予定なので比較できない。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・年々拡大 ・地域の方々や東京芸大の学生さんの参加も得て、楽しいイベントとなっている。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・花桃の生長に伴い、大変見事な並木が実現 ・子ども達の環境意識が向上
5	地域の団体同士のつながりが深まっている。
6	地域の中で認知度が上がった。会員の高齢化（第一期生の数が一番多い）、新しく毎年養成しているインストラクターの不定着。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に協力してくれる人、企業が増えた。 ・四季を通して坂川の散策をする人が増えたと同時に地域住民の坂川への関心の高まりがみられる。 ・献灯まつりには、毎年多くの学生ボランティアが参加してくれるようになった。 ・毎年 1000 基を超える灯籠を地元長寿会の協力で作成している。
8	活動を継続していくうちに小学生が中学、高校生になり、次の世代をリードしていけるようになった。

《文化・芸術》

1	地域活動、文化活動の環境の変化
2	活動場所も増加し、昨年度は諸団体とのプロジェクトにより、人形劇団を招き子どもたちに昔話の楽しさを伝えることができた。
3	地域の活性化に貢献大：少子高齢化に向け、子ども会の同一化見守りの強化に結びつく
4	町会の盆踊りの趣旨に賛同する若い世代の従事者が増加しつつあり、これに伴い町会の他の事業にも積極的に理解、協力を得ている。
5	<ul style="list-style-type: none">・参加人員（利用）の増加。・盆踊りだけでなく、子ども（各階戸）が喜ぶ催し物が増えた。

(12) 周知方法(複数回答)・・・「町会・自治会の回覧や掲示板」による周知が最も多く、次いで「声かけ」による周知も多い。「その他」の内容は、市の広報誌を活用して周知している団体が多い。

回答数：561



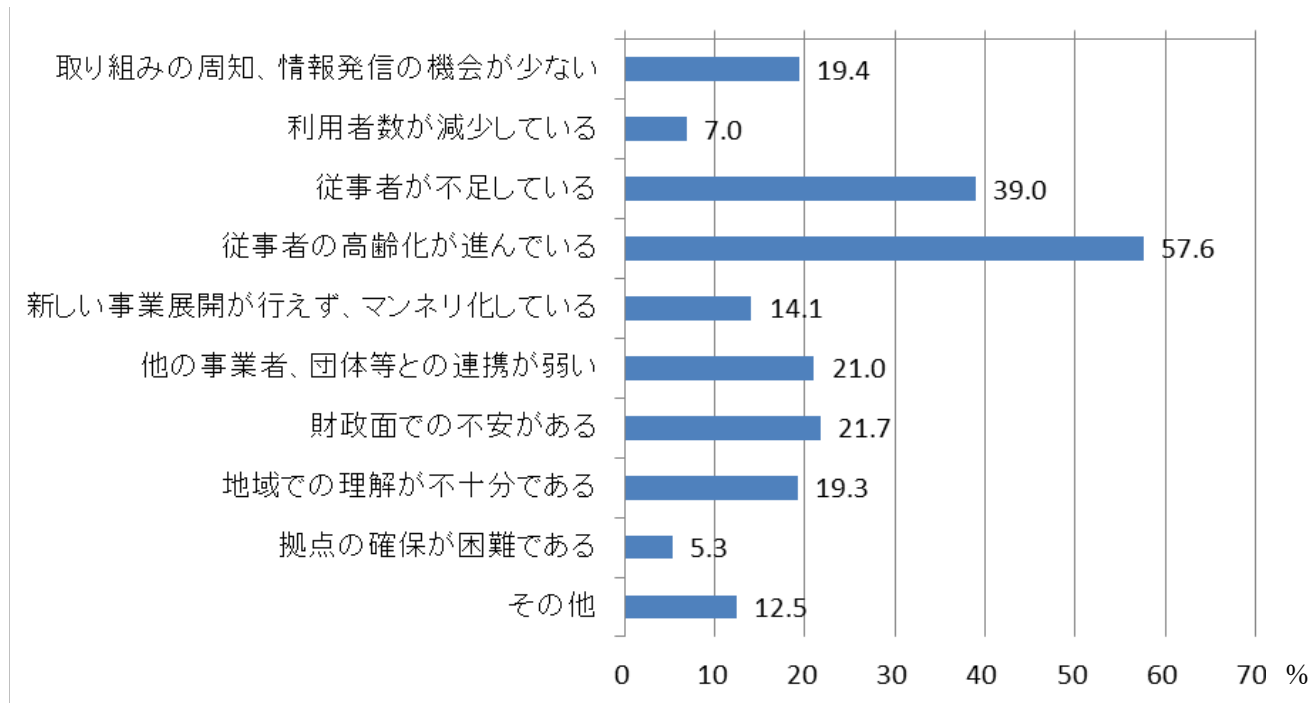
◆団体種別 (取り組み数)

	民間企業	複合サー ビス	福祉関係機 関	市民活動登 録団体	地域団体	町会・ 自治会	計
計	8	34	104	186	157	647	1136
1 ホームページ	2	11	14	38	16	13	94
2 チラシ	1	11	19	44	30	52	157
3 町会・自治会の回覧・掲示板	1	0	16	13	14	278	322
4 ポスター掲示	2	0	23	27	22	114	188
5 声かけ	2	5	24	37	43	160	271
6 その他	0	7	8	27	32	30	104

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

(13) 問題点（複数回答）・・・「従事者の高齢化が進んでいる」、次いで「従事者が不足している」が最も多く、地域で取り組む上で担い手不足が大きな問題点となっている。

回答数：561



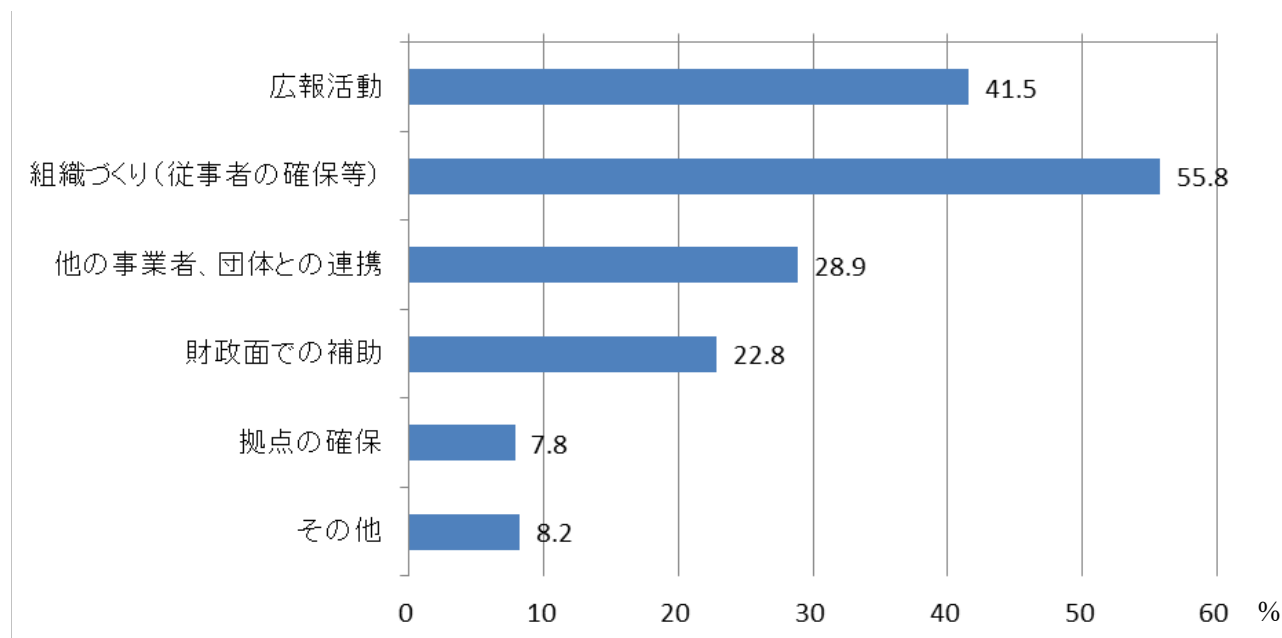
◆団体種別（取り組み数）

	民間企業	複合サービス	福祉関係機関	市民活動登録団体	地域団体	町会・自治会	計
計	10	26	65	170	193	753	1217
1 取り組みの周知、情報発信の機会が少ない	0	7	17	30	27	28	109
2 利用者数が減少している	1	0	6	6	9	17	39
3 従事者が不足している	1	0	10	26	30	152	219
4 従事者の高齢化が進んでいる	0	0	5	26	53	239	323
5 新しい事業展開が行えず、マンネリ化している	2	0	3	4	14	56	79
6 他の事業者、団体等との連携が弱い	4	12	4	22	18	58	118
7 財政面での不安がある	1	0	5	32	16	68	122
8 地域での理解が不十分である	1	7	2	10	19	69	108
9 拠点の確保が困難である	0	0	1	0	2	27	30
10 その他	0	0	12	14	5	39	70

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

(14) 取り組む上で必要と感じること(複数回答)・・・「組織づくり(従事者の確保等)」が最も多く、次いで「広報活動」を必要と感じる団体が多い。

回答数：561



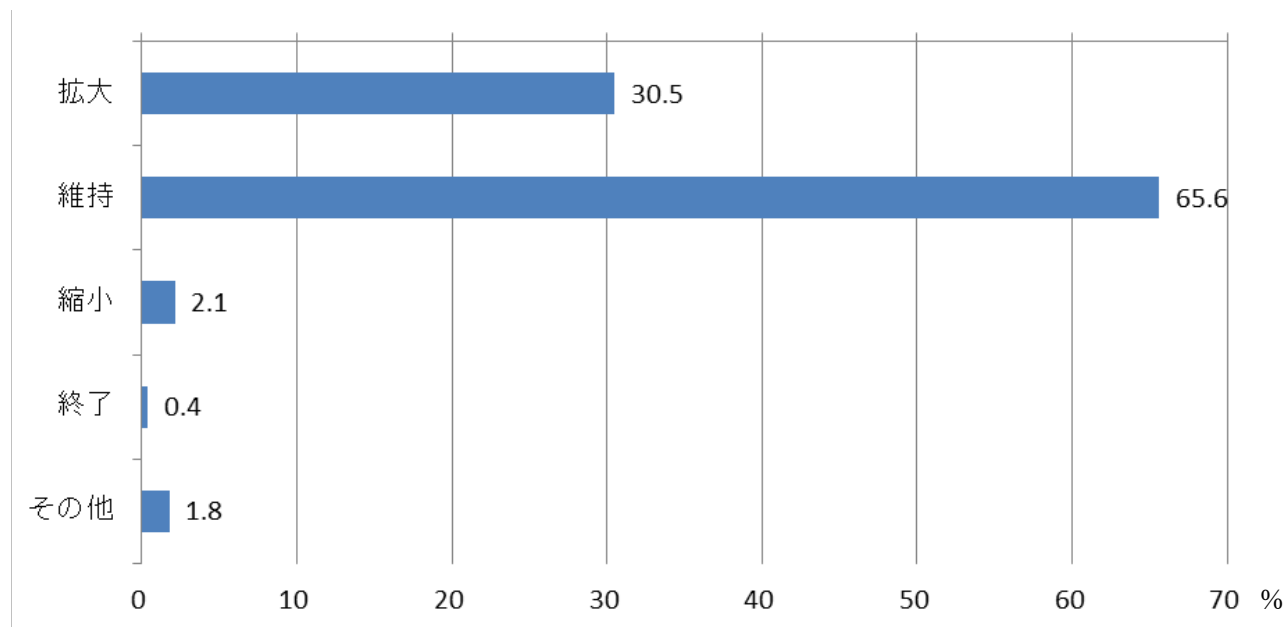
◆団体種別 (取り組み数)

	民間企業	複合サービス	福祉関係機関	市民活動登録団体	地域団体	町会・自治会	計
計	9	22	63	133	134	565	926
1 広報活動	2	11	26	35	41	118	233
2 組織づくり(従事者の確保等)	2	0	17	30	33	231	313
3 他の事業者、団体との連携	5	11	7	24	29	86	162
4 財政面での補助	0	0	9	35	21	63	128
5 拠点の確保	0	0	2	1	2	39	44
6 その他	0	0	2	8	8	28	46

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

(15) 今後の方向性・・・今後も「維持」していく取り組みが約 65%と最も多く、次いで「拡大」していく取り組みは 30%と多い。

回答数：561



◆団体種別（取り組み数）

	民間企業	複合サービス	福祉関係機関	市民活動登録団体	地域団体	町会・自治会	計
計	5	12	46	67	79	354	563
1 拡大	2	11	13	31	29	85	171
2 維持	3	1	30	30	48	256	368
3 縮小	0	0	1	3	0	8	12
4 終了	0	0	0	1	1	0	2
5 その他	0	0	2	2	1	5	10

※塗りつぶしは、各列上位2位以内

(16) 地域福祉についての意見(自由記載)(抜粋)・・・以下、原文のままの掲載となります。

《民間企業》

1	今後とも連携を密に活動していきたいと考えています。
---	---------------------------

《複合サービス》

1	もっともっと積極的に地域に関わっていきたいと考えます。
2	行政、地域、他の団体といっしょに地域を考えていく中にぜひ加わって地域福祉計画を進めていけたらと考えます。

《福祉関係機関》

1	相談支援体制（高齢者・障害者・子ども）の「一体化・一元化」が重要かつ必要と考えている。
2	活動資金、安全面（保険等）に不安がある。支援があるとありがたい。
3	保育園付近の民生委員、学童の職員の方々と情報交換が出来るといいのでは。
4	子ども孫の力は大きい。高齢者も成人も学生も子どもには優しくなれる。この力を地域の福祉活動に活用すべきであると考えます。お金を掛けずに、優しさを育成・発掘する。
5	今後、地域の方々を対象に介護保険勉強会や介護教室等実施していきたいと考えています。
6	地域福祉の基本は自助、共助の意識が広がらないと前進しないと思っています。そのためには啓蒙と有志の人々の取り組みを根気よく継続するしかないと思います。新設の施設なので、地域のつながりがまだ形成されていませんが、地道に努力していきたいと思います。
7	現在、法人としての取組みはできておりません。今後の検討課題と致します。
8	人々のコミュニティへの帰属意識や関心をいかに引き出すかが重要と考える。そうでないと何をやっても参加する顔ぶれはいつもと変わらず、その顔ぶれはどんどん高齢化していく様に感じる。
9	町会によって異なる課題を見出していかなければならない。
10	市内各地域にある特養をはじめとした施設、事業所を拠点としてもっと活用を図っていくべきと考える。

《市民活動登録団体》

1	地域福祉は人と人とのつながりを大切にし、特に近隣の方々と思いやりを持って過していくことにしています。
2	松戸市に提出する事務手続き書などは、今回の様に郵送の形をとって欲しい。（会社勤務があり平日に市役所に行くことは困難）
3	青少年の為にもどの様にしたら利用者を増やせるのかアドバイスが欲しいです。
4	他団体との連携の道を作って欲しい。
5	福祉は全て厚生労働省所管内のものではない。ボランティアは役所の便利な無料の手先ではない。
6	近年花づくりや花壇は高齢者の地域福祉には欠かせないもので財政面でご協力頂きたい。
7	河原塚古墳の整備公園化の推進をお願いしたい。
8	途切れない「見守り活動」を実施する為に努力したい。
9	要望として、市内に拡大写本を必要としている公共施設があれば知りたいところです。現在提供先は都内の小・中学校（3校）のため。
10	財政面での援助が必要。
11	災害時要援護者、あるいは災害弱者と呼ばれる方々に対する支援は平常時に及ぶという点において地域福祉ということになります。言葉を代えれば、防災＝福祉とか地域防災＝地域福祉と言ってもよいのかもしれませんが。
12	松戸にも多くの障がいのある子がいるので、運動支援に特化した発達支援&放課後デイを開催できたらと考えている。
13	現実にいじめや少年犯罪おきてからでは遅いと思います。（教育委員会）
14	行政との連携、応援があるとありがたい。
15	外国人も日本人と結婚し高齢化している。ご主人が居る時はよいが、亡くなって一人になったとき手続きや生活に困る現状が出始めている。その対策を考えてほしい。
16	この取り組みは、学校との連携が必要となるので、宣伝がもっと開かれると良い。（社会教育と学校教育）
17	会場の確保が難しいので、検討してほしい。
18	財政的な支援がほしい。

《地域団体》

1	「いきいき安心プランVまつど」の関係、総合的な地域づくりとして取り組むようにしていただきたい。
2	行政としては出来る限り現場に赴き、対面して生の声を聞いていただければ自ずとすべきこと、優先順位が見えてくると思います。
3	当会は日レク協会の福祉部門のため、今後も介護予防の意識をより多くの人に理解していただき、行政も共に同じ方向性を持って協力してほしい。
4	利用者も従事者も東部地区内の住民ですが、地区社協とのつながりが無いのが残念です。
5	地域全体として必要と感じており、全般協力的である。
6	高齢化が進んで来ているので近くでサロンのいつでも誰でも参加出来る場所を作って下さい。家の中に閉じこもりを無くす為にも介護、認知症予防の為、安心して暮して行ける松戸市に住んで良かったと思える市にしていきたいと思えます。
7	私達会員も高齢化し、視覚障害者も高齢化が進んでいます。その中で心身共のバリアフリーを望んでいます。
8	いわゆる「心のバリアフリー」を最も必要としているのは、心病む人たちであることをわかってほしい。
9	市との協力事業が行いたい。
10	地域福祉への貢献を目指してきました。
11	講師に謝礼が支払えず無料で依頼する。
12	民生委員がいないので困ります。住宅の方(老人)はカギを掛けているので中々話が出来ません。
13	聴覚障害という特性からコミュニケーションをどのように進めるかという観点から手話・ろう問題の啓発は重要と考えています。
14	公共施設の増設、センター内の整備。特にエレベーターの設置などボランティアさんが高齢になって二階に荷物など運ぶのが困難になっている。
15	地域全体に街灯が暗いので、もっと明るくしてほしい。道路標示をもっとはっきりとかいて頂きたいです。
16	きめ細かく、変わりなく福祉活動を推進することが大切である

17	地域のニーズに応えられる様、アンテナをはりつつ地区社協と共に福祉構図を作り上げ、更に地域ボランティアの協力体制も整えていければよりよい地域環境が実現できるかと。
18	地域仕組みづくり、または地区社協活動の活性化を進めていくことが、様々な角度からの地域福祉活動の充実につながっていくのではないのでしょうか。

《町会・自治会》

1	自治会の決め手について、あるいは「住民自治」とは何かご教授ください。
2	認知症予防教室の地域における共同の担い手として考えていた地域包括支援センターが、介護保険の改革により多忙となった業務を理由に、地域（住民）による福祉活動に協力願ひ下げのような状況が発生する事は非常に残念な事態です。
3	地区の包括センターは行政からの指示をこなすのに精一杯です。大幅な介護保険の改革で、地域での連携どころではないのが実態です。地域（住民）は主体的に包括支援センターをいかに活用するかが問われていると認識していますが、とても今の包括センターには期待ができません。
4	現在社協と民生委員を中心に町会役員、各組長と活動しているが、一人一人の諸々の問題でうまくいっているとは思えないがなんとか問題意識をもって少しずつでも地域を変えていきたい。
5	（老人会）等が諸々の行事に応援したり協力し、社協と共に進めているが、強力な人材が必要。今後市の福祉課とも相談。
6	広範囲な連携が必要と考える
7	規模の小さい町会のため集会所ナシ。防災倉庫等ナシ。高齢化は進んでいるが、食事会・声かけ・見守り等の体制がつくられていない現状。社福協と協議を進める考えである。
8	現在、元気な高齢者が（一部）弱高齢者支援策をしているが次の従事者を育てる事を考えるとき、従事者への意識付け等を福祉に協力した方へのサービスとして地域で利用出来るポイントカードのような支援策を考えて頂きたいと思います。（支援者への意識づけ）
9	福祉の団体が多すぎ。どこが主体で何を取り扱うかが分からなくなってきつつある。
10	地域福祉について話し合いができるスペースがあれば連携が深まる。誰でも使える机、PC、コピー機があればよい。
11	従来のやり方にとらわれず新しい活動をトライしたい。基本的に福祉は個人責任を考えるので不必要に行政にでばってほしくない。

12	自治会としては、祭り・もちつきなどを通じ世代間交流を計り、さらに事業者と協力した福祉活動を続けていきたい。
13	今後地域福祉課様や社会福祉協議会等の出張講座等を開き高齢化の問題等を解決していきたい。
14	高齢者の夫婦二人の世帯でもいつ一方に異常が発生し、その度合が高くなるかわからない。そして一方に不幸なことが起こっても判断できずに放置する（最近この様な事例があった）地域の福祉団体の方々も努力しているようだが、こうなると頼りにならない。地域の力は町会だと思うが、悩み多種。
15	地域福祉の前の段階で「人とのかかわりお断り」というムードがマンション内の大きな流れです。
16	民生委員と少し補助金不足（活動費）
17	相対的な割合で、高齢者が増えており、その活動の能力などは千差万別。もっと高齢者の組織化と、活用を生かす施策を導入すべきでは？
18	行政（市）は、計画だけを行い、現場で実施するのは町会等団体。ボランティア精神にも多方面に限度があります。
19	高齢化が進んで来ているので、4～5年まえにありました体操指導員の健康体操等を行ってほしいです。会場の確保をお願い致します。
20	松戸駅東口近くに地域福祉事務所のようなものができたが、当自治会がどこの事務所の管轄なのか上住所では確認できなかった。
21	プライバシーの壁。親切とおせっかいの違いなどの壁の突破には町会内でいわゆる「向う三軒両隣」の絆が基本と思う。
22	その他地域に合った活動が気軽に出来れば良いのですが、地域で活動している人に保険（ボランティア）を市で考えて良いと思う。
23	「遠い親戚より近くの他人」日常生活においては安心の為に、顔見知りが増える事が大切に思います。
24	町会、自治会、地域住民からでた事業には地域福祉課をはじめ社会福祉協議会も協力願います。
25	危機管理課、防災訓練時（自助）+共助訓練として当災害時要援護者への対応を入れていく。 ※あらゆる機会に当事業の説明会を取り入れてほしい。
26	町会、自治会などとの連携をとる方法（みな町会独自で活動している）
27	地域福祉で一番の問題は寝たきりになってしまった高齢者の老々介護をどのようにして当事者の負担を軽減出来るのかと常に考えてしまう。

28	よそ者はいれないという地域のかたくなな考え方に悲しみを持つ一人です。人々、どの人も笑顔が生きている喜びがもてる世の中になってほしいと考えます。
29	市民、住民への意識向上に市が力を込めるべき！
30	地域福祉推進にはその内容と体制に具体性が求められるので、現在取り組みが進んでいる他の地域の実情をも参考にして適切な内容と体制を検討していかなければならない。そのため、行政機関や関係団体が有する関係情報がより多く地域に提供されることが地域における取組の推進に役立つものと考えられる。
31	町会内には公共的な建物も公園もなく、隣の町会にある農業会館を借りて使っているが、古い建物で急な階段の二階で、たたみの部屋なので動きも制限されるので、参加者が限られる。だれでも来られる会場が必要と痛切に思う。
32	独居一声かけ、一品プレゼント展開出来ないか。
33	各種委員の選任について、年齢制限を考え直し、元気な高齢者の活用を図った方が良いと考えます。
34	この数年、住人の出入りが多く、長期的な構想が描けなかった。H26 度でほぼ一段落し、区域住民の世代数がかかなり若返り、めざすところがみえるようになってきた。
35	今後、地域の方々を対象に介護保険勉強会や介護教室等実施していきたいと考えています。
36	・地域福祉は地域住民にまったく見えていない。 ・社会福祉活動の見直しをするべきだ。
37	管理組合の高齢者支援委員会と新松戸地区高齢者支援連絡会とどの様な関係を構築できるのかご支援いただきたい。
38	町の声を取り入れた行政マンが育ってほしい。
39	地域福祉の基本は自助、共助の意識が広がらないと前進しないと思っています。そのためには啓蒙と有志の人々の取り組みを根気よく継続するしかないと思います。新設の施設なので、地域のつながりがまだ形成されていませんが、地道に努力していきたいと思っています。
40	高齢化のため、認知症問題もあり、オレンジの会に入会して、包括センターの指導を受けつつがんばっています。町会としてはプライバシーの問題に突き当たってしまいます。今は包括に繋げて助かっています。民生委員にも繋げています。
41	「ふるさとづくりの推進」には運動会、盆踊り等の一過性のイベントに加え、その地域にある遺跡、伝統、言い伝え等の掘り起こしも必要と思う。
42	まだまだ、隣人との付き合いが面倒だという傾向がある。だから、地域福祉といっても消極的である。

43	自治会の活動等について、行政面の援助が欲しい。
44	福祉行政、ボランティアは提供、受け手も多種多様化している。故に行政マンは進取の気性とまでは期待もしないが、アグレッシブな地域ボランティアとの関りを持って欲しいものだ、つくづく。
45	高齢者の見守り活動の壁→情報の不足、手段、方法が不明。
46	健康で長生きするには、地域のコミュニケーションによる楽しい日常生活をおくることが大切です。そのための各種イベント活動等を活発化させたい。
47	昔の「緑のおばさん」制度を復活させるべき。子どもたちのために、社会、行政はお金（時給）を払ってでも実施するべきだ。
48	民生児童委員、健康推進委員、高齢者支援相談員と協力してゆきたい。
49	当法人の会員は全て当マンション居住者であり、活動の対象は住民のみですが、近隣のマンションの人々からも私達の活動に参加したいという声があがっている。私達の活動を地域に拡大するためには、自助、共助と公助が協働しないと拡大しないし、子どもから高齢者までカバーすることが難しい。
50	高齢化社会を迎えるにあたり、地域の人達で支え合える体制作りが必要と感じる。必要な支援は何か、自治体の取り組みは何か、住民と行政のつなぎ役も必要と思う。具体的な方法をどんどん知らせてほしい。
51	栄町3丁目には広場が無く、訓練には工業団地の構内を借りて行っているが、いざ何か有った際には訓練通りに借りられるか不安が有る。又、市指定の場所が全て坂川を超えているので、大きな地震の折、橋が使えなくなるのではと皆危惧している。この近くに避難場所があればと感じています。
52	地域福祉については、紙面で呼びかける前に、各町会が活動できる施設として、集会場、公園等の拠点作りに必要な、土地や広場の整備確保が必要だと思います。また、老人や子ども達を「いきいきと地域で暮らせる」ためにも、形の見える施設強化を検討して欲しいと思います。
53	現在、法人としての取り組みはできておりません。今後の検討課題と致します。
54	独居老人の見守り、声かけをもっと進めたいので、バックアップがほしい。
55	市側も町づくり（特に地域による福祉の支え）のためのセミナー開催、広報活動に力を入れてほしい。実施している団体には、より財政支援が得られる施策をお願いします。
56	防犯指導員・防犯リーダー、民生委員、健康推進員、スポーツ推進員等松戸市から委嘱を受けている業務があるがどれも高齢化の影響を受けて効果的に活動しているとは言えない現状がある。いつまでもボランティア精神に頼っていてはまもなく適任者がいなくなる恐れがある。

57	夏祭り盆踊りのような地域の人々の融和を促進するような活動について行政からの補助があってもいいのではないかと考える。
58	少子高齢化加速について町会の対応
59	アルファ米など防災訓練に使う資材の提供をお願いしたい。
60	地域福祉に関係する市の部署間の調整をして地域におろしてくるようにしてもらいたい。地域では混乱している。
61	高齢化によりすべての行事の見直しが必要不可欠です。
62	市⇄地域の交流、話し会の開催等を行い、地域の実情を知った方が良い。文章でなく、生の声を聞いたらどうですか。
63	集会所が無い。人的出会い、交流の場所として貴重。
64	松飛台地区は松戸市の中で福祉が取り残された地域です。ご支援をお願いします。松戸市の標準レベルよりも6ほど遅れています。自治会も住民も無知・無関心派が多すぎます。
65	今後、超高齢・人口減社会に進む中、高齢化・従事者不足問題にどのように対処していくのか、他地区での実践事例などの情報提供をお願いしたい。

把 握 表

地域団体の取り組みの把握について(1)

提出用

団体名： _____ 担当者 _____ 連絡先： _____

取 り 組 み 1									
取 り 組 み 名 <small>(取り組み(予定含む)名をご記入ください。上記の取り組みについて該当する区分すべてに○を付けてください。複数回答可) ※団体としてのボランティア活動の場合は右記に○を付けてください。</small>								※左記の取り組みが団体としてのボランティア活動の場合は下記に○を記入してください。 [_____]	
	まちづくり	健康・医療	防 犯	防 災	相談支援	就労支援	人材育成	障害者支援	介 護
	声かけ・見守り	サロン	子育て支援	世代間交流	文化・芸術	その他(_____)			
取 り 組 み 内 容 <small>(上記の取り組みについて具体的にどのようなを行うのか、ご記入ください。)</small>									
対 象 者 <small>(上記の取り組みの対象となる方について、該当する箇所すべてに○を付けてください。複数回答可)</small>	高 齢	障 害	子 ども	女 性	その他				
現 状 <small>(上記の取り組みについて平成25年度の開催数や利用者数、従事者数、活動開始時期等をご記入ください。)</small>	開 催 数		利用者(会員)数		従事者(団体)数		活動開始時期		
	回/年		人		人				
	活動するメリット								
	活動当初と比較して変化したこと								
周 知 方 法 <small>(取り組みの周知方法について該当箇所すべてに○を付けてください。複数回答可)</small>	ホームページ	チラシ	町会・自治会の回覧・掲示板	ポスター掲示	声かけ	そ の 他			
問 題 ・ 課 題 <small>(取り組み中で、問題や課題と思われることについて該当項目すべてに○を付けてください。複数回答可)</small>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 取り組みの周知、情報発信の機会が少ない 2. 利用者が減少している 3. 従事者が不足している 4. 従事者の高齢化が進んでいる 5. 新しい事業展開が行えず、マンネリ化している 6. 他の事業者、団体等との連携が弱い 7. 財政面での不安がある 8. 地域での理解が不十分である 9. 拠点の確保が困難である 10. その他(_____) 								
取 り 組 む 方 法 で 必 要 と 感 じ る 事 項 <small>(取り組みをさらに進めていくうえで、必要と感じていることについて該当項目すべてに○を付けてください。複数回答可)</small>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広報活動 2. 組織づくり(従事者の確保等) 3. 他の事業者、団体等との連携 4. 財政面での補助 5. 拠点の確保 6. その他(_____) 								
今 後 の 方 向 性 <small>(貴団体が理想とする取り組みが実現できているか、また、今後どのように取り組み予定かについてご記入ください。)</small>									
拡 大 ・ 維 持 ・ 縮 小 ・ 終 了 ・ そ の 他 <small>(上記の今後の方向性について、いずれかに○を付けてください。) ※新規の取り組みとして検討している場合は「その他」を選択してください。</small>	拡 大	維 持	縮 小	終 了	そ の 他				
<small>地域福祉についてご意見等がございましたら、右記にご記入ください。</small>									

地域団体の取り組みの把握について(1)

町会・自治会 提出用

団体名： _____ 担当者 _____ 連絡先： _____

取り組み 1																		
取り組み名 (取り組み(予定含む)名をご記入ください。上記の取り組みについて該当する区分すべてに○を付けてください。複数回答可) ※団体としてのボランティア活動の場合は右記に○を付けてください。	※上記の取り組みが団体としてのボランティア活動の場合は下記に○を記入してください。 { _____ }																	
	<table border="1"> <tr> <td>まちづくり</td> <td>健康・医療</td> <td>防犯</td> <td>防災</td> <td>相談支援</td> <td>就労支援</td> <td>人材育成</td> <td>障害者支援</td> <td>介護</td> </tr> <tr> <td>声かけ・見守り</td> <td>サロン</td> <td>子育て支援</td> <td>世代間交流</td> <td>文化・芸術</td> <td colspan="4">その他(_____)</td> </tr> </table>	まちづくり	健康・医療	防犯	防災	相談支援	就労支援	人材育成	障害者支援	介護	声かけ・見守り	サロン	子育て支援	世代間交流	文化・芸術	その他(_____)		
まちづくり	健康・医療	防犯	防災	相談支援	就労支援	人材育成	障害者支援	介護										
声かけ・見守り	サロン	子育て支援	世代間交流	文化・芸術	その他(_____)													
取り組み内容 (上記の取り組みについて具体的にどのようなことを行おうのか、ご記入ください。)																		
対象者 (上記の取り組みの対象となる方について、該当する箇所すべてに○を付けてください。複数回答可)	<table border="1"> <tr> <td>高齢</td> <td>障害</td> <td>子ども</td> <td>女性</td> <td>その他</td> </tr> </table>	高齢	障害	子ども	女性	その他												
高齢	障害	子ども	女性	その他														
現状 (上記の取り組みについて平成25年度の開催数や利用者数、従事者数、活動開始時期等をご記入ください。また、活動経費・財源について該当箇所○を付けてください。)	<table border="1"> <tr> <td>開催数</td> <td>利用者(会員)数</td> <td>従事者(団体)数</td> <td>活動開始時期</td> </tr> <tr> <td>回/年</td> <td>人</td> <td>人</td> <td></td> </tr> </table>	開催数	利用者(会員)数	従事者(団体)数	活動開始時期	回/年	人	人										
	開催数	利用者(会員)数	従事者(団体)数	活動開始時期														
	回/年	人	人															
	活動するメリット																	
	活動当初と比較して変化したこと																	
活動経費 ※おおよそで構いません。 <table border="1"> <tr> <td>1万円未満</td> <td>1万円～5万円</td> <td>5万円～10万円</td> <td>10万円～30万円</td> <td>30万円～50万円</td> <td>50万円～100万円</td> <td>100万円～500万円</td> <td>500万円～1,000万円</td> <td>1,000万円以上</td> </tr> </table>	1万円未満	1万円～5万円	5万円～10万円	10万円～30万円	30万円～50万円	50万円～100万円	100万円～500万円	500万円～1,000万円	1,000万円以上									
1万円未満	1万円～5万円	5万円～10万円	10万円～30万円	30万円～50万円	50万円～100万円	100万円～500万円	500万円～1,000万円	1,000万円以上										
財源(収入源) <table border="1"> <tr> <td>会費</td> <td>自主事業収入</td> <td>寄付金</td> <td>民間からの助成金</td> <td>行政からの補助金</td> <td>その他(_____)</td> </tr> </table>	会費	自主事業収入	寄付金	民間からの助成金	行政からの補助金	その他(_____)												
会費	自主事業収入	寄付金	民間からの助成金	行政からの補助金	その他(_____)													
周知方法 (取り組みの周知方法について該当箇所すべてに○を付けてください。複数回答可)	<table border="1"> <tr> <td>ホームページ</td> <td>チラシ</td> <td>町会・自治会の回覧・掲示板</td> <td>ポスター掲示</td> <td>声かけ</td> <td>その他(_____)</td> </tr> </table>	ホームページ	チラシ	町会・自治会の回覧・掲示板	ポスター掲示	声かけ	その他(_____)											
ホームページ	チラシ	町会・自治会の回覧・掲示板	ポスター掲示	声かけ	その他(_____)													
問題・課題 (取り組み中で、問題や課題と思われることについて該当項目すべてに○を付けてください。複数回答可)	1. 取り組みの周知、情報発信の機会が少ない																	
	2. 利用者が減少している																	
	3. 従事者が不足している																	
	4. 従事者の高齢化が進んでいる																	
	5. 新しい事業展開が行えず、マンネリ化している																	
	6. 他の事業者、団体等との連携が弱い																	
	7. 財政面での不安がある																	
	8. 地域での理解が不十分である																	
	9. 拠点の確保が困難である																	
	10. その他(_____)																	
取り組むうえで必要と感じること (取り組みをさらに進めていくうえで、必要と感じていることについて該当項目すべてに○を付けてください。複数回答可)	1. 広報活動																	
	2. 組織づくり(従事者の確保等)																	
	3. 他の事業者、団体等との連携																	
	4. 財政面での補助																	
	5. 拠点の確保																	
	6. その他(_____)																	
今後の方向性 (貴団体が理想とする取り組みが実現できているか、また、今後どのように取り組む予定かについてご記入ください。)																		
	<table border="1"> <tr> <td>拡大</td> <td>維持</td> <td>縮小</td> <td>終了</td> <td>その他</td> </tr> </table>	拡大	維持	縮小	終了	その他												
拡大	維持	縮小	終了	その他														
拡大・維持・縮小・終了・その他 (上記の今後の方向性について、いずれかに○を付けてください。) ※最終の取り組みとして検討している場合は「その他」を選択してください。																		
地域福祉についてご意見等がございましたら、右記にご記入ください。																		

第2次松戸市地域福祉計画に関連する
地域団体の取り組みの把握結果

発行 松戸市
編集 松戸市健康福祉部地域福祉課
Tel 047-366-3019
Fax 047-366-1392
